

② 第2回アンケートの結果

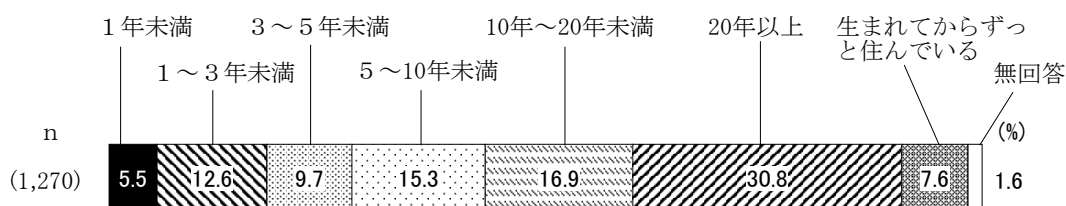
1 定住状況について

1-1 居住年数

◎ 20年以上の＜長期居住者＞が38.4%

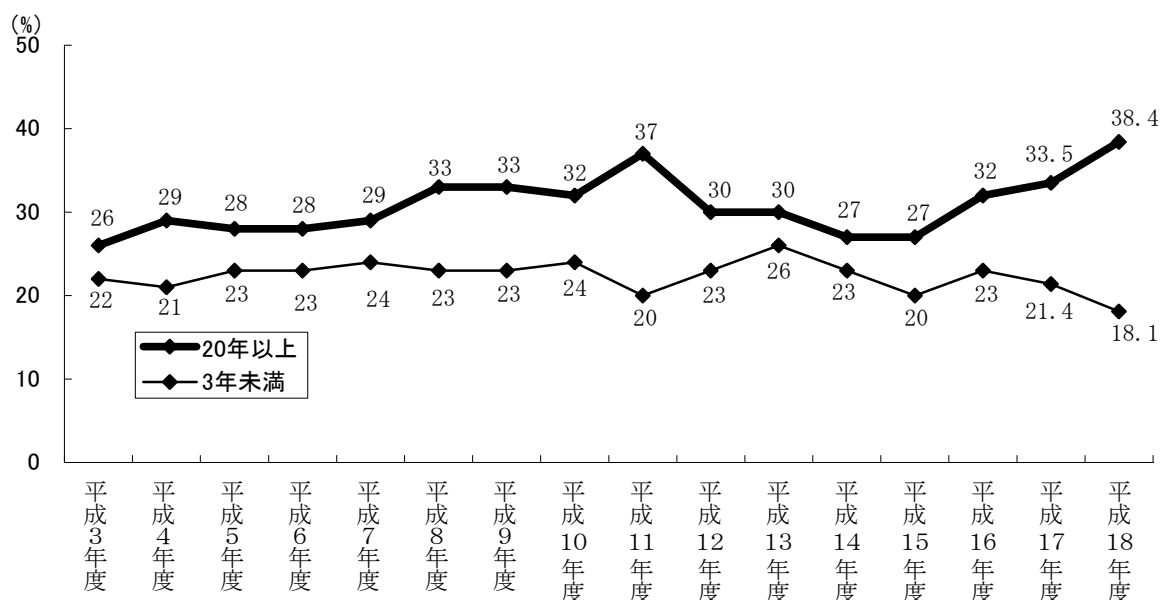
問1 今のところにお住まいになって、何年になりますか。(〇は1つ)

図表1-1 居住年数



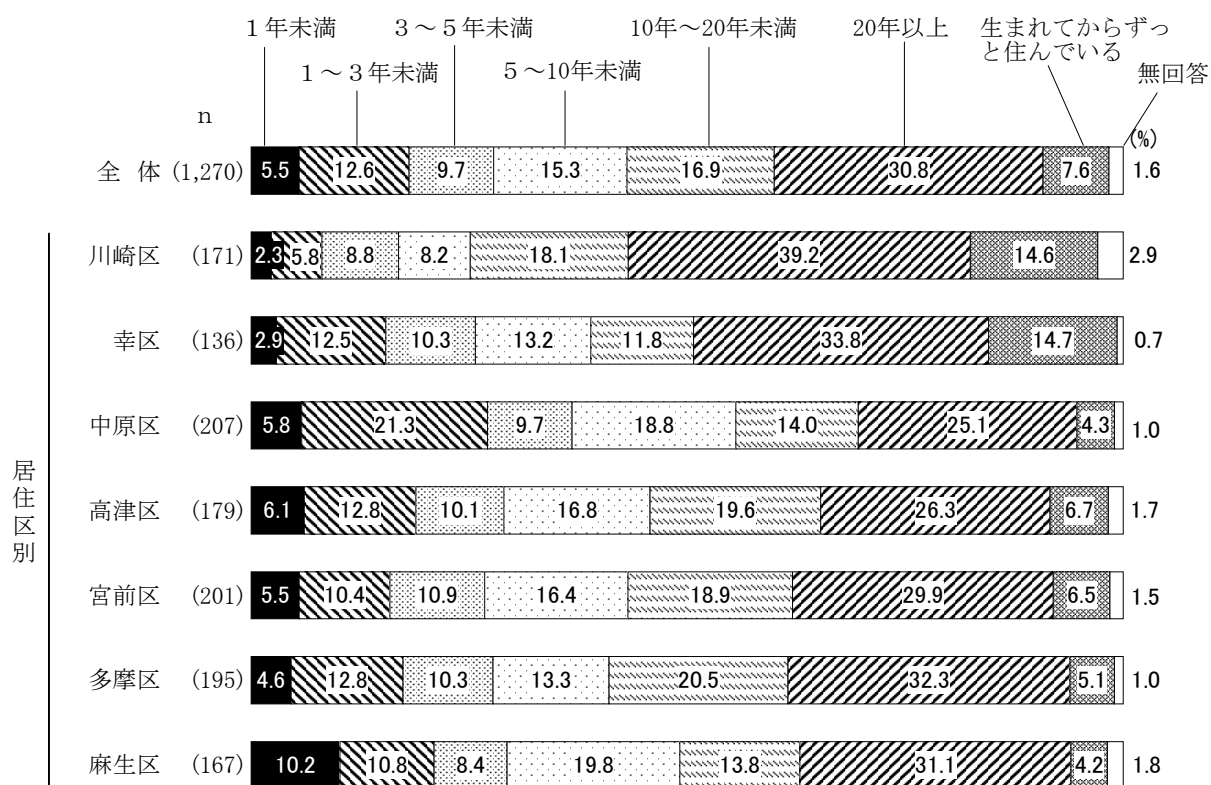
居住年数は、「20年以上」が30.8%で最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(7.6%)をあわせた＜長期居住者＞は38.4%となっている。「5～10年未満」(15.3%)と「10年～20年未満」(16.9%)をあわせた＜中期居住者＞は32.2%、「1年未満」(5.5%)と「1～3年未満」(12.6%)と「3～5年未満」(9.7%)をあわせた＜短期居住者＞は27.8%となっている。(図表1-1)

図表1-2 居住年数(経年比較)



過去の推移では、平成17年度と比較すると＜長期居住者＞の割合は33.5%から38.4%へ4.9ポイント増えている。一方、「3年未満」は21.4%から18.1%へ3.3ポイント減っている。(図表1-2)

図表 1－3 居住年数（居住区別）



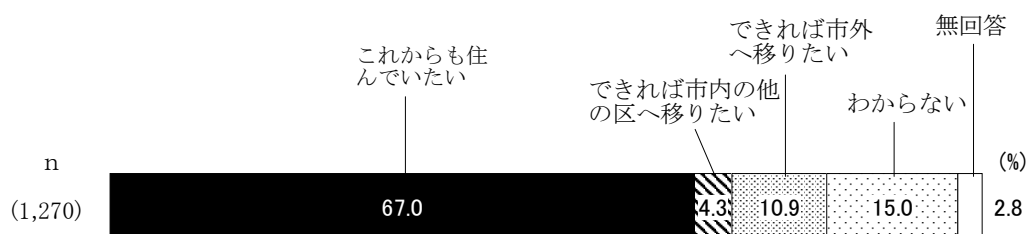
居住区別では、＜長期居住者＞の割合は川崎区が 53.8%、幸区が 48.5%が多い。一方、「3年未満」は中原区が 27.1%で最も多くなっている。（図表 1－3）

1-2 定住意向

◎ 「これからも住んでいたい」が67.0%

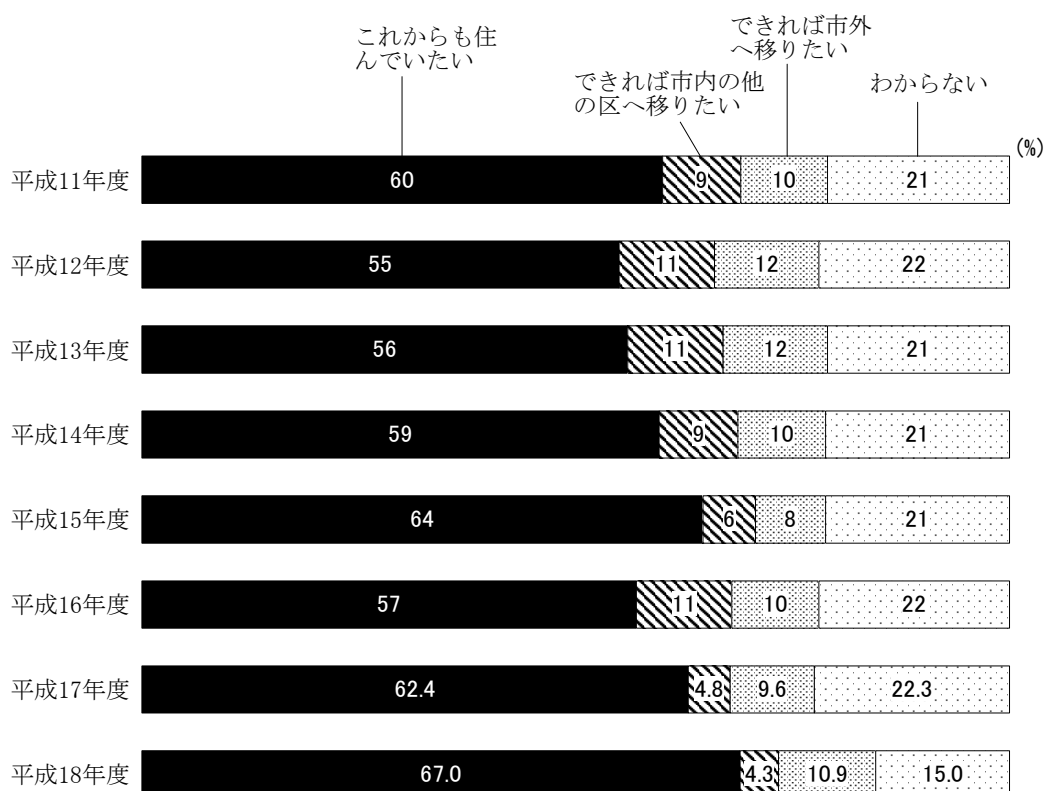
問2 あなたは、これからも今のところにお住まいになりたいですか。(○は1つ)

図表1-4 定住意向



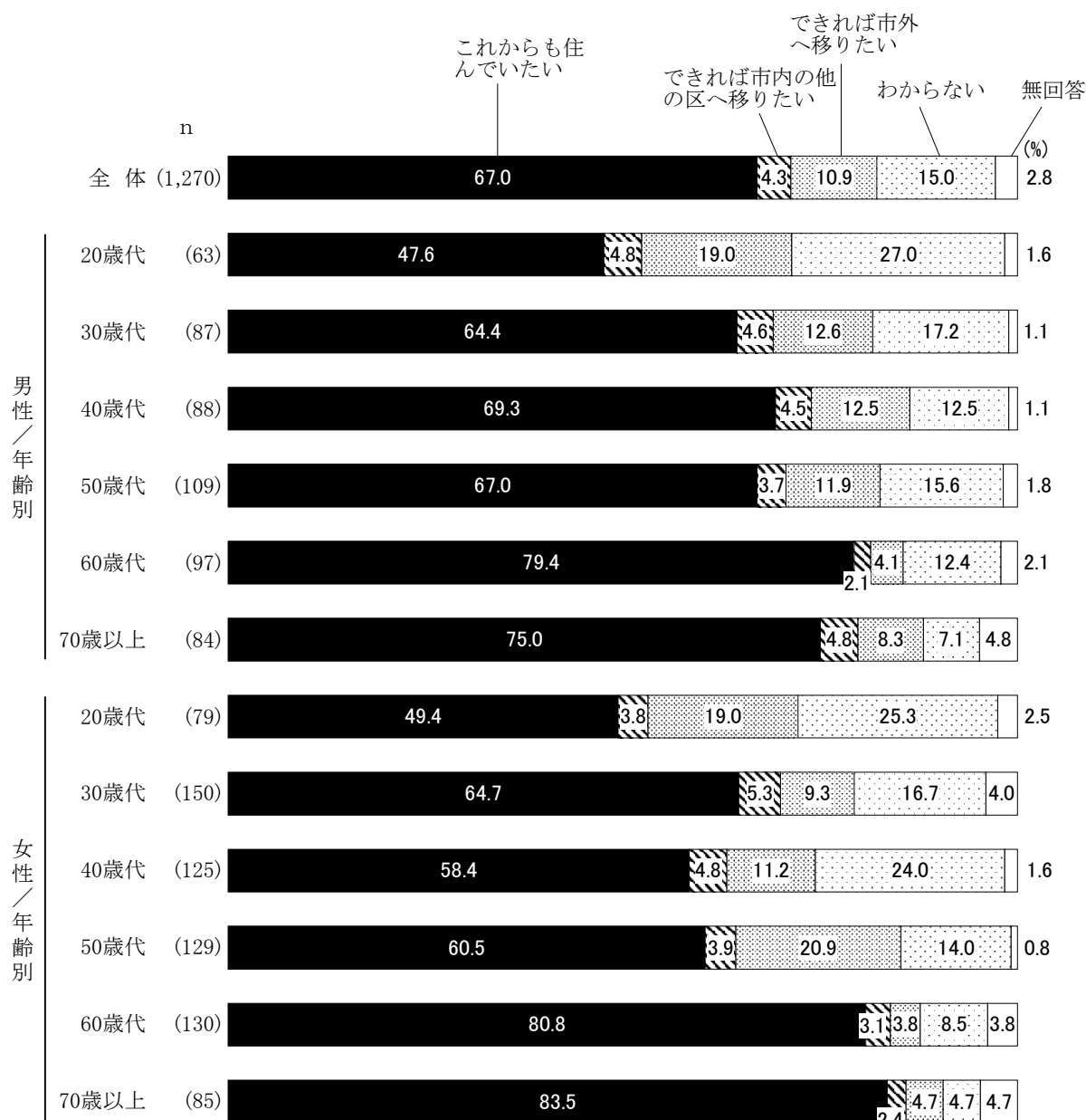
定住意向は、「これから住んでいたい」が67.0%を占めている。一方、「できれば市内の他の区へ移りたい」(4.3%)と「できれば市外へ移りたい」(10.9%)をあわせた<転居意向>は15.2%となっている。(図表1-4)

図表1-5 定住意向（経年比較）



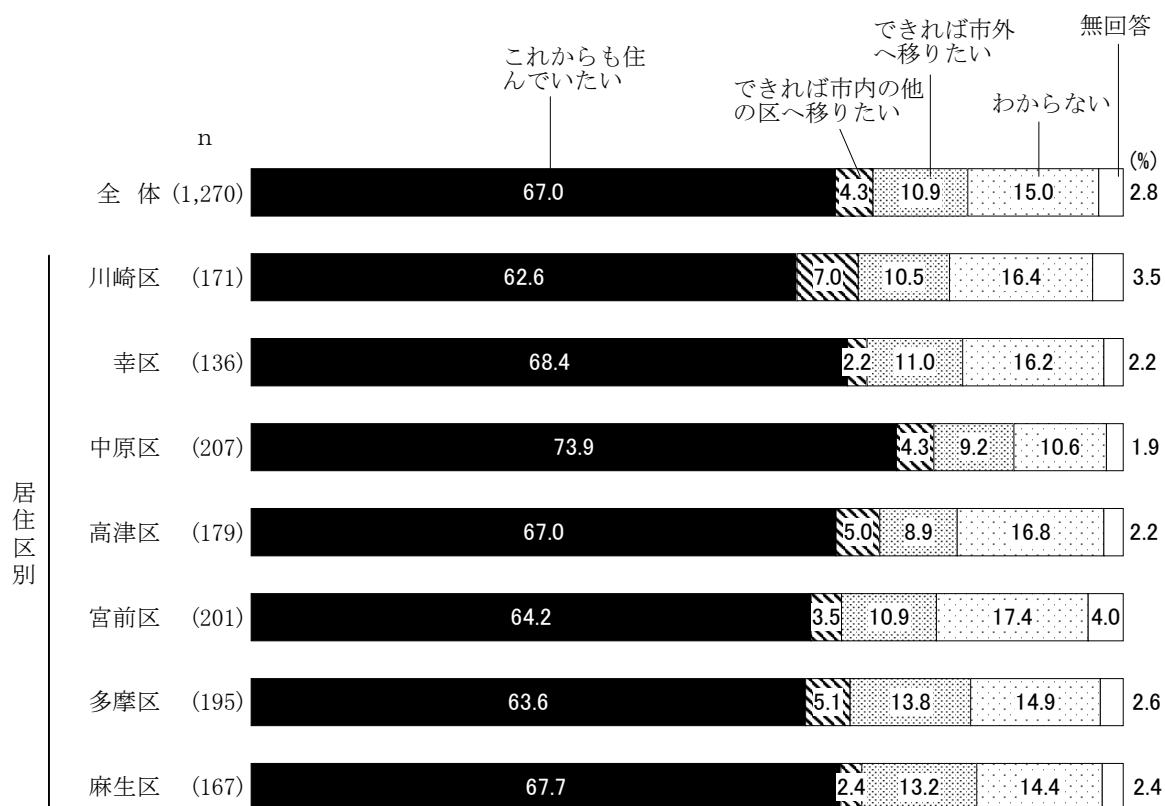
過去の推移では、平成17年度と比較すると定住意向は62.4%から67.0%と4.6ポイント増えている。(図表1-5)

図表 1－6 定住意向（性／年齢別）



性／年齢別では、定住意向の割合は男女ともに 60 歳以上で多く、特に女性で 8 割を超えている。また、男女ともに 20 歳代は他の年齢層に比べて少なくなっている。(図表 1－6)

図表 1－7 定住意向（居住区別）



居住区別では、定住意向の割合が最も多いのは中原区（73.9%）となっている。（図表 1－7）

1-3 転居意向の理由

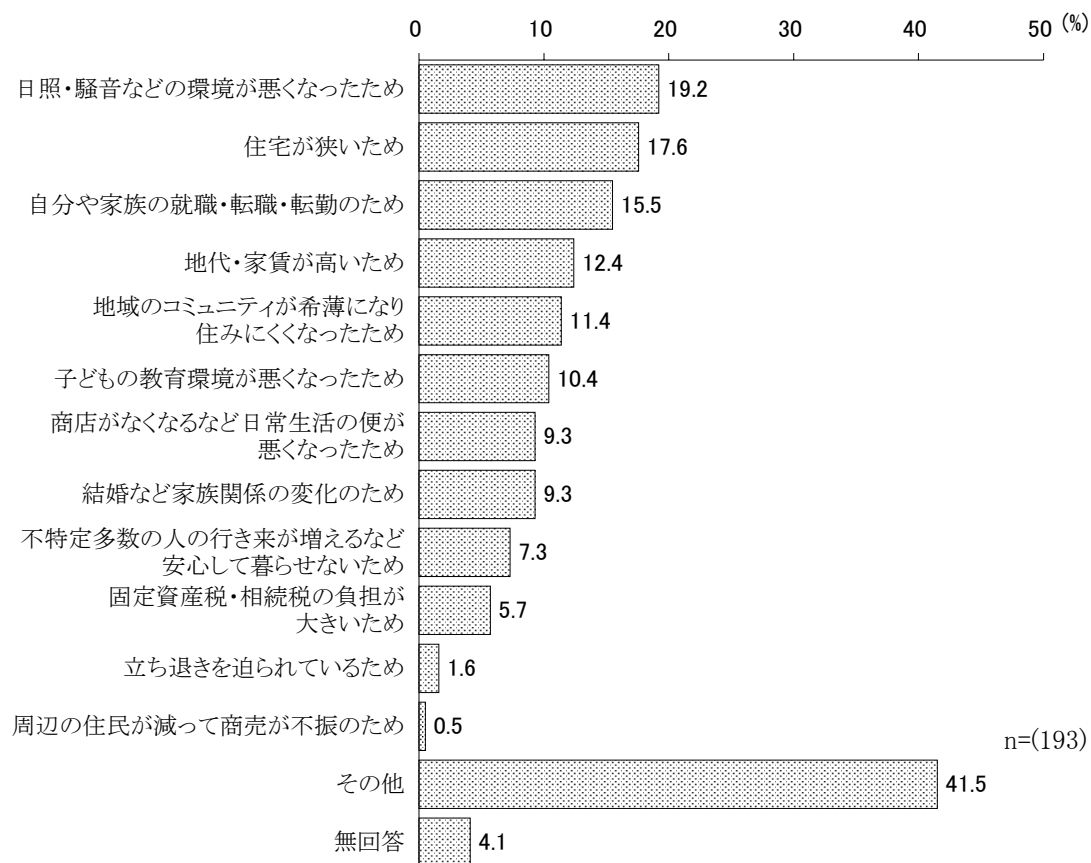
◎ 「日照・騒音などの環境が悪くなったため」が19.2%、「住宅が狭いため」が17.6%

(問2で「できれば市内の他の区へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問2-(1) 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。

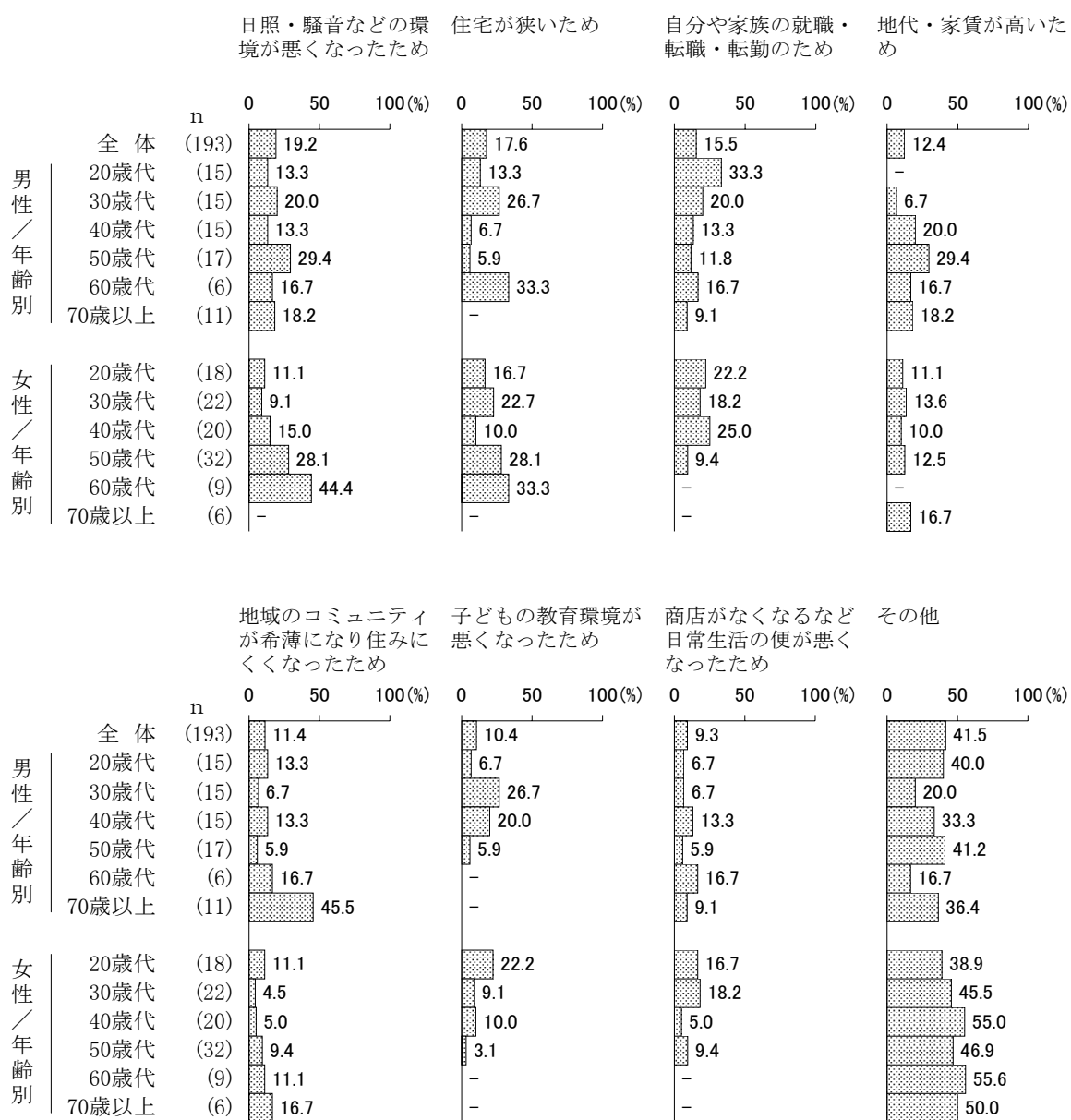
(あてはまるものすべてに○)

図表1-8 転居意向の理由



転居意向の理由は、「日照・騒音などの環境が悪くなったため」が19.2%、「住宅が狭いため」が17.6%となっている。この他、「自分や家族の就職・転職・転勤のため」(15.5%)、「地代・家賃が高いため」(12.4%)と続いている。また、「その他」が41.5%となっている。(図表1-8)

図表 1－9 転居意向の理由（性／年齢別、上位7項目、「その他」）



性／年齢別では、基数が少ないため参考程度とするが、「日照・騒音などの環境が悪くなったため」は女性の60歳代で割合が多い、「地域のコミュニティが希薄になり住みにくくなったため」は女性の70歳以上で割合が多くなっている。（図表1－9）

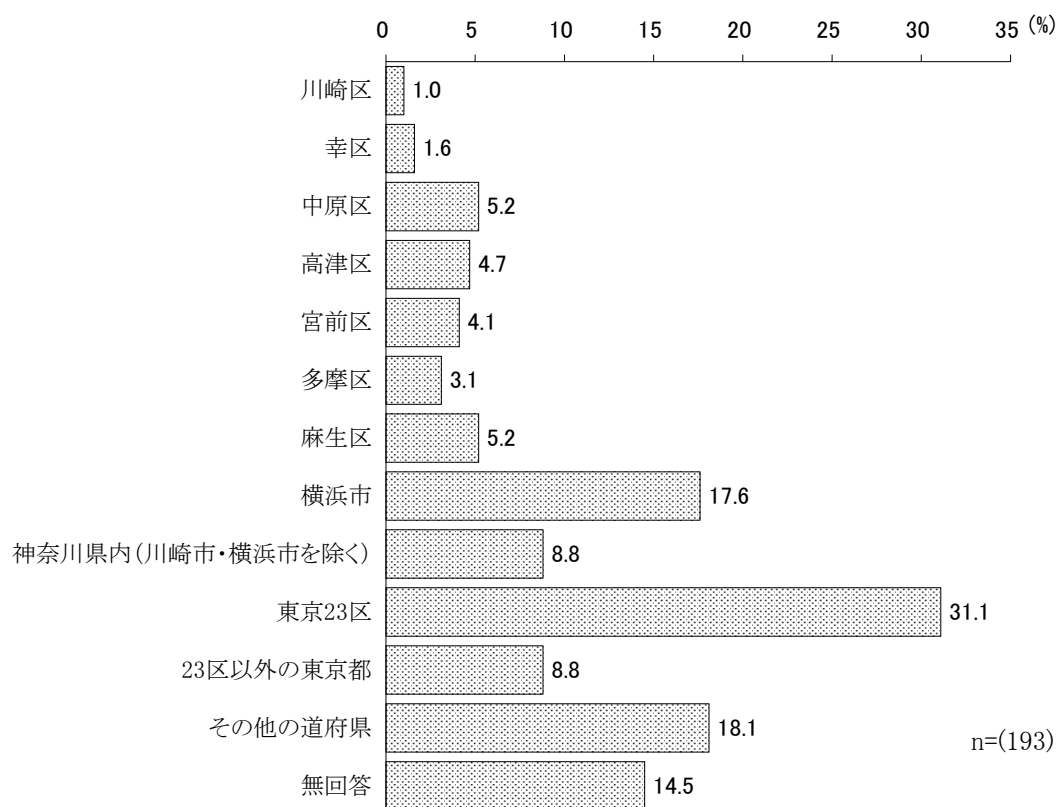
1-4 転居先の希望

◎ 市外では「東京23区」が31.1%、市内では「中原区」と「麻生区」が比較的多い

(問2で「できれば市内の他の区へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問2-(2) どこに住みたいと思いますか。(○は2つまで)

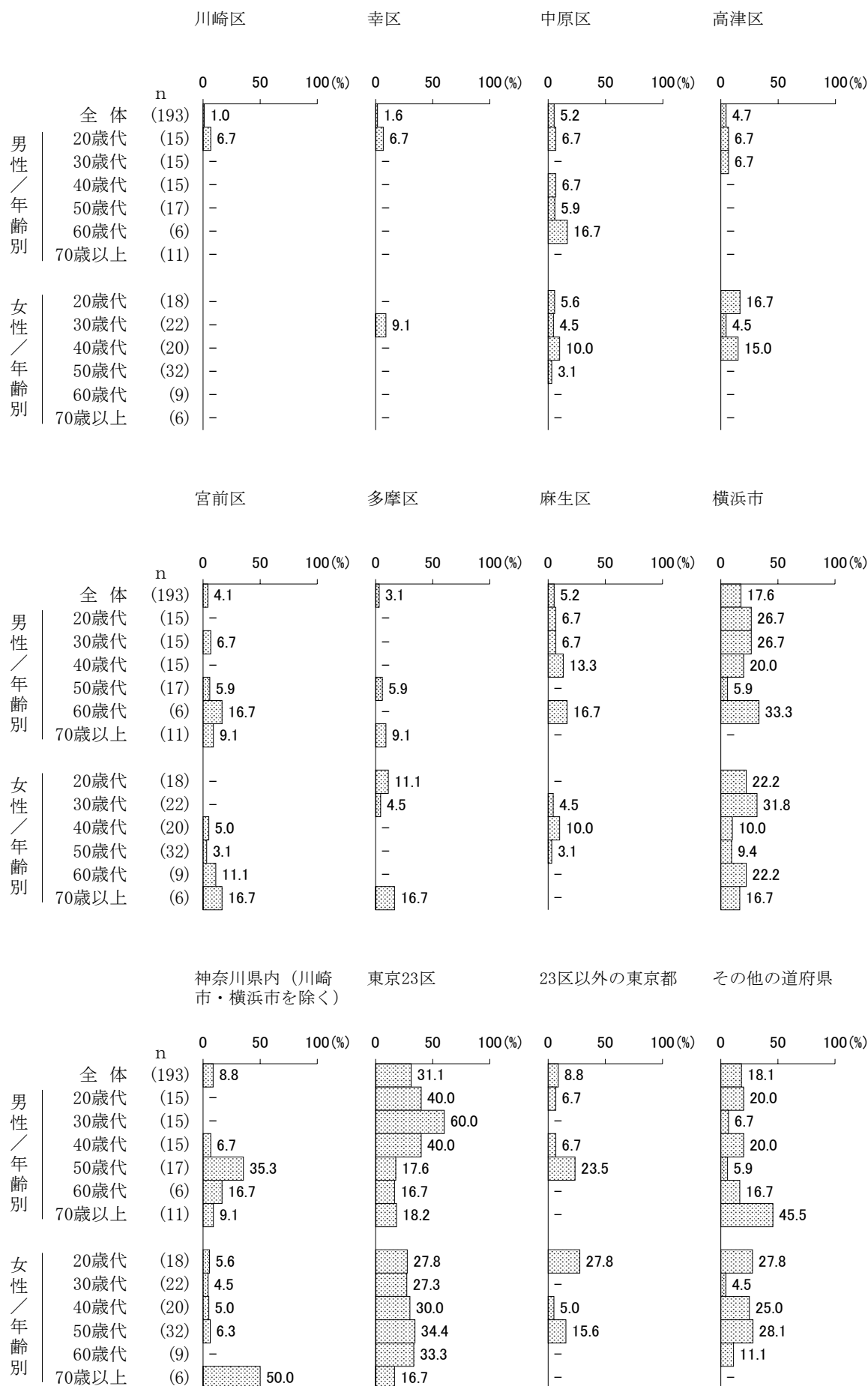
図表1-10 転居先の希望



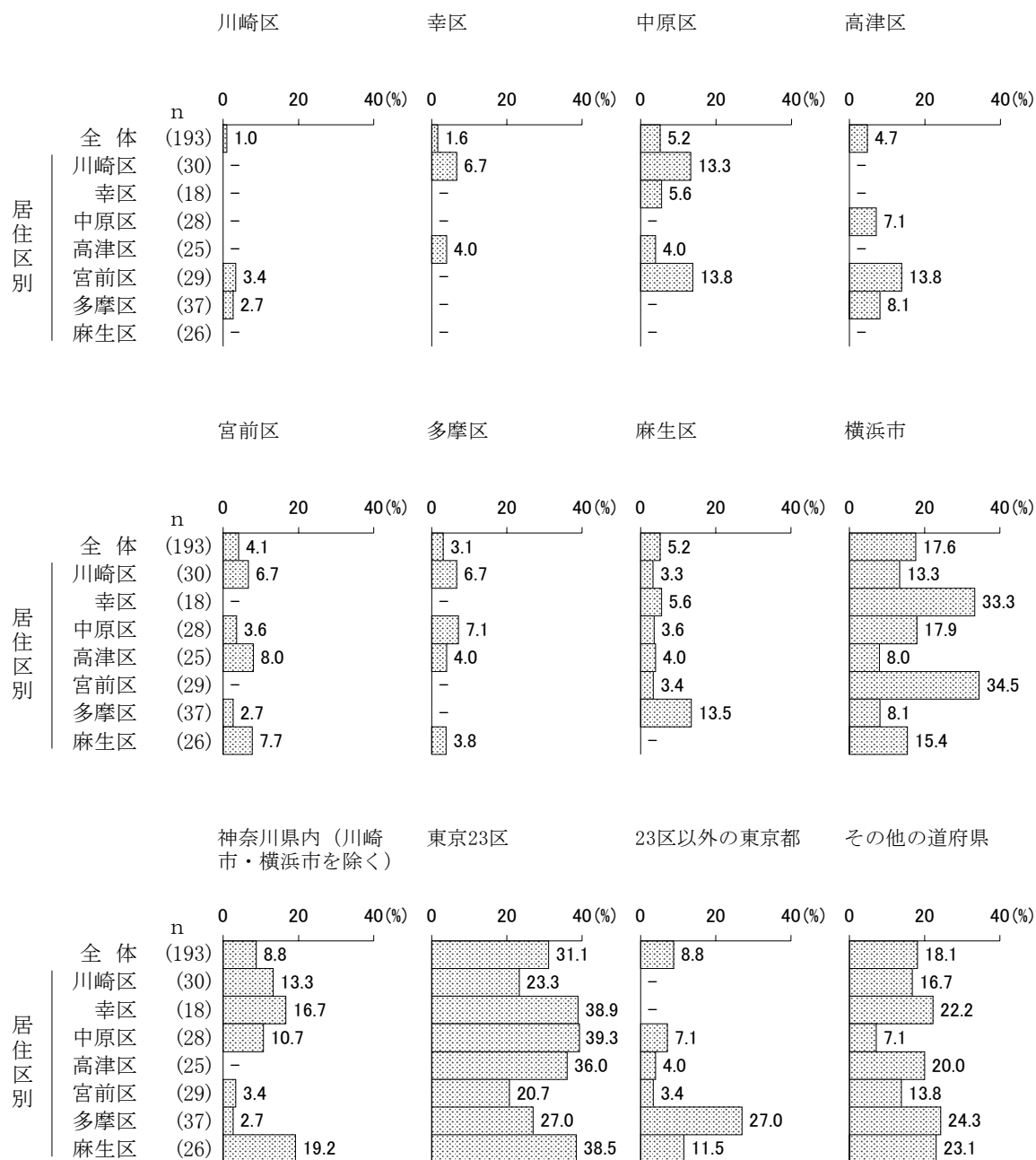
転居先の希望は、市内の中では、「中原区」(5.2%)、「麻生区」(5.2%)が比較的多い。市外の中では、「東京23区」が31.1%で最も多く、「その他の道府県」(18.1%)、「横浜市」(17.6%)と続いている。(図表1-10)

性／年齢別では、基数が少ないため参考程度とするが、「東京23区」は男性の30歳代で割合が多くなっている。(図表1-11)

図表1-11 転居先の希望（性／年齢別）



図表 1-12 転居先の希望（居住区別）



居住区別では、市内の中では、「中原区」は川崎区と宮前区で1割、「高津区」は宮前区で1割、「麻生区」は多摩区で1割となっている。市外の中では、「横浜市」は宮前区で3割台半ば、「東京23区」は中原区、麻生区で4割に近い。「その他の道府県」は多摩区、麻生区で2割台半ばとなっている。（図表1-12）

2 生活環境の評価について

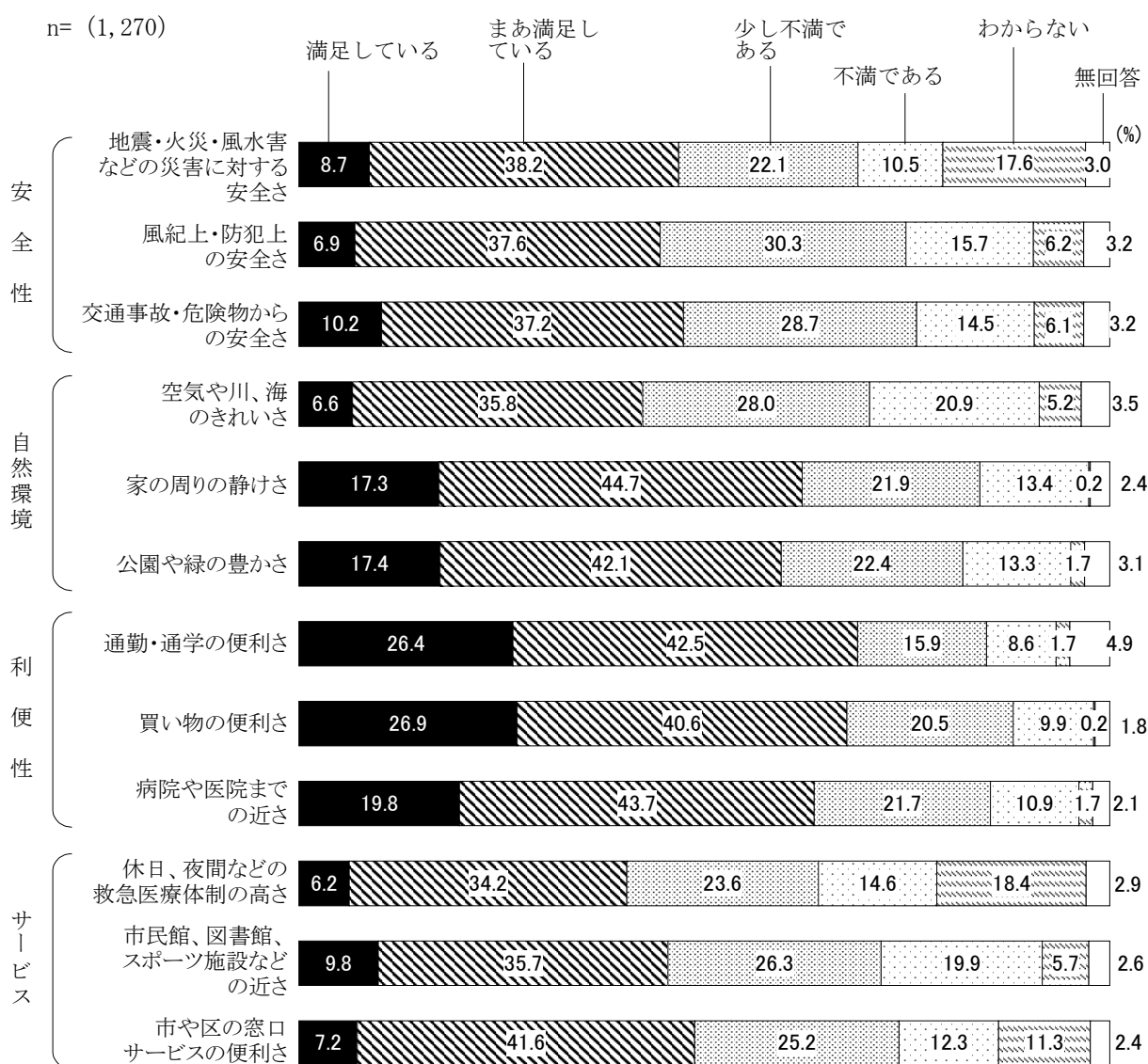
2-1 生活環境の満足度

◎ <満足>が多いのは、“通勤・通学の便利さ”と“買い物の便利さ”、<満足>が最も少ないのは「休日、夜間などの救急医療体制の高さ」

問3 あなたのお住まいの周りの生活環境について、うかがいます。

次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(○はそれぞれ1つずつ)

図表2-1 生活環境の満足度

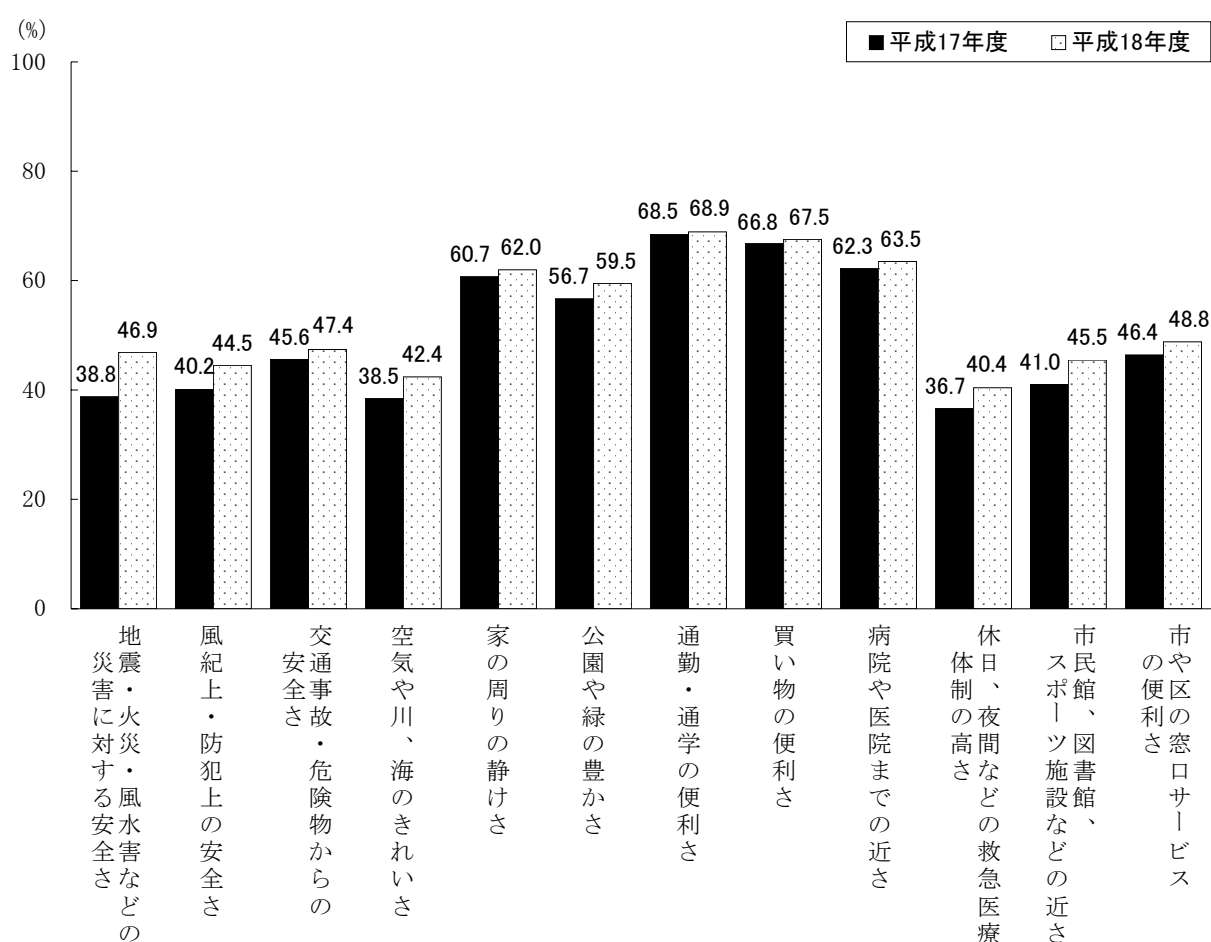


生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>が多いのは、“通勤・通学の便利さ” (68.9%)、“買い物の便利さ” (67.5%)、“病院や医院までの近さ” (63.5%)、“家の周りの静けさ” (62.0%)、“公園や緑の豊かさ” (59.5%) などとなっている。一方、<満足>が最も少ないのは「休日、夜間などの救急医療体制の高さ」 (40.4%) となっている。(図表2-1)

図表 2-2 生活環境の満足度（＜満足＞、前年比較）

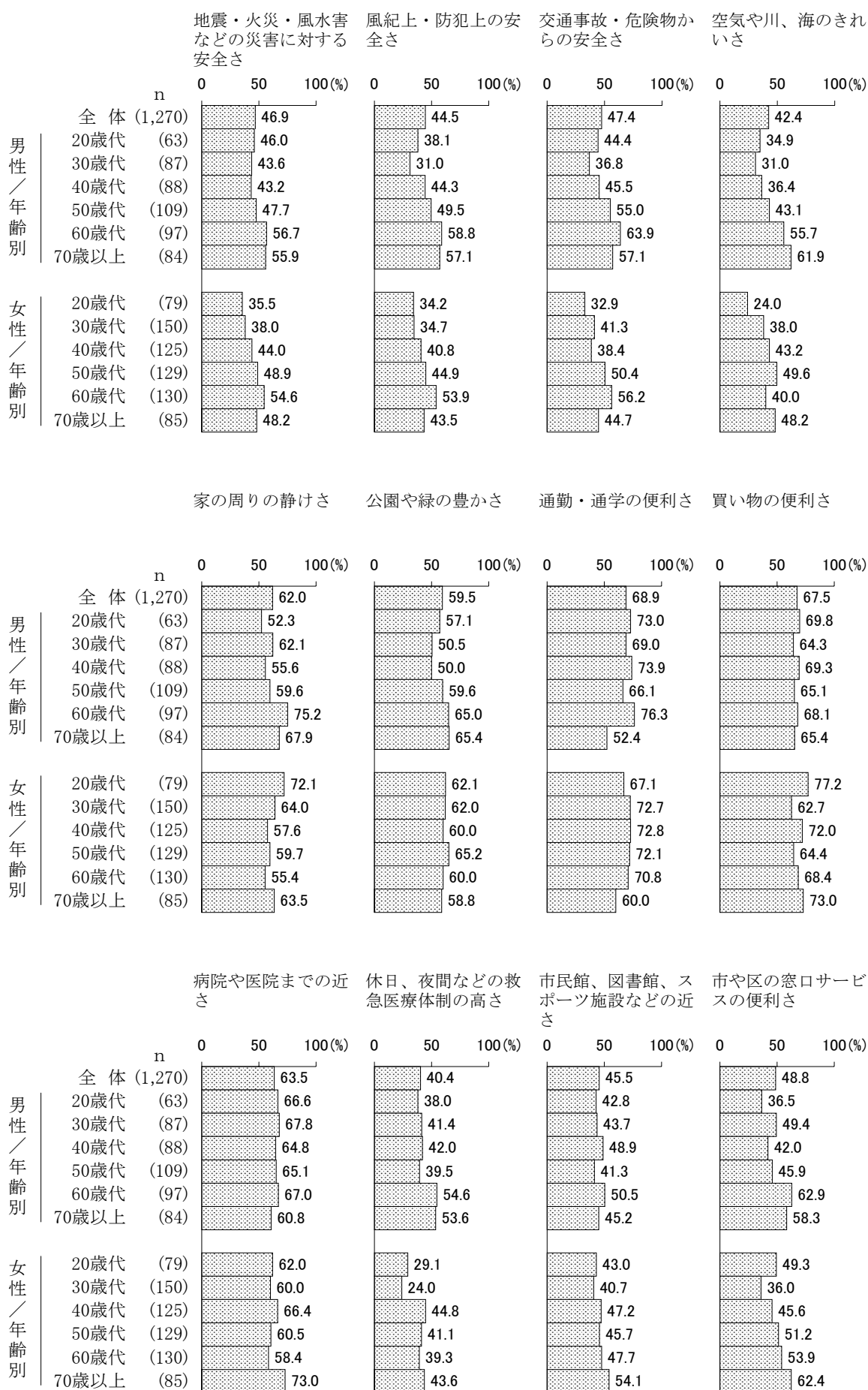
「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
平成17年度	38.8	40.2	45.6	38.5	60.7	56.7	68.5	66.8	62.3	36.7	41.0	46.4
平成18年度	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8



平成 17 年度と比較すると、満足度はすべての項目で平成 17 年度を上回っている。“地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ”（46.9%）で 8.1 ポイント、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（45.5%）で 4.5 ポイント、“風紀上・防犯上の安全さ”（44.5%）で 4.3 ポイント上回っている。（図表 2-2）

図表2-3 生活環境の満足度（＜満足＞、性／年齢別）



性／年齢別で満足度をみると、『安全性』は概ね 20 歳代から 30 歳代が少ないが、年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。特に“交通事故・危険物からの安全さ”で男性の 60 歳代が 6 割台となっている。『自然環境』は“空気や川、海のきれいさ”で男性は年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。“家の周りの静けさ”で男性の 60 歳代、女性の 20 歳代が 7 割台となっている。

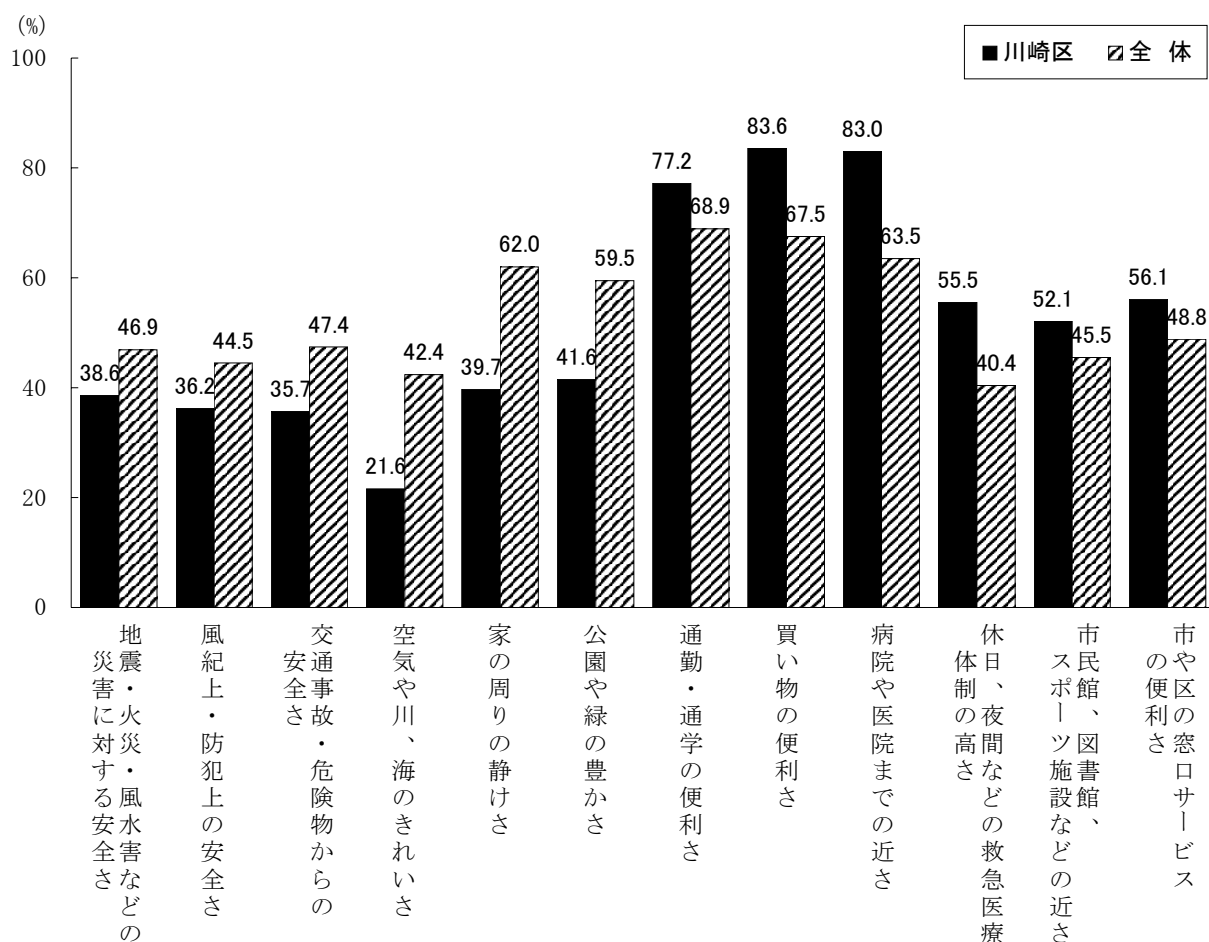
『利便性』は“通勤・通学の便利さ”で男性の 60 歳代が最も多い。“買い物の便利さ”で女性の 20 歳代、40 歳代、70 歳以上で 7 割台となっている。“病院や医院までの近さ”で女性の 70 歳以上が 7 割台となっている。『サービス』は“休日、夜間などの救急医療体制の高さ”で男性の 60 歳以上が半数を超えている。“市や区の窓口サービスの便利さ”で男性の 60 歳代、女性の 70 歳以上で 6 割台となっている。(図表 2－3)

図表 2 - 4 生活環境の満足度（＜満足＞、居住区別）

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
川崎区	38.6	36.2	35.7	21.6	39.7	41.6	77.2	83.6	83.0	55.5	52.1	56.1
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8

【川崎区生活環境満足度】

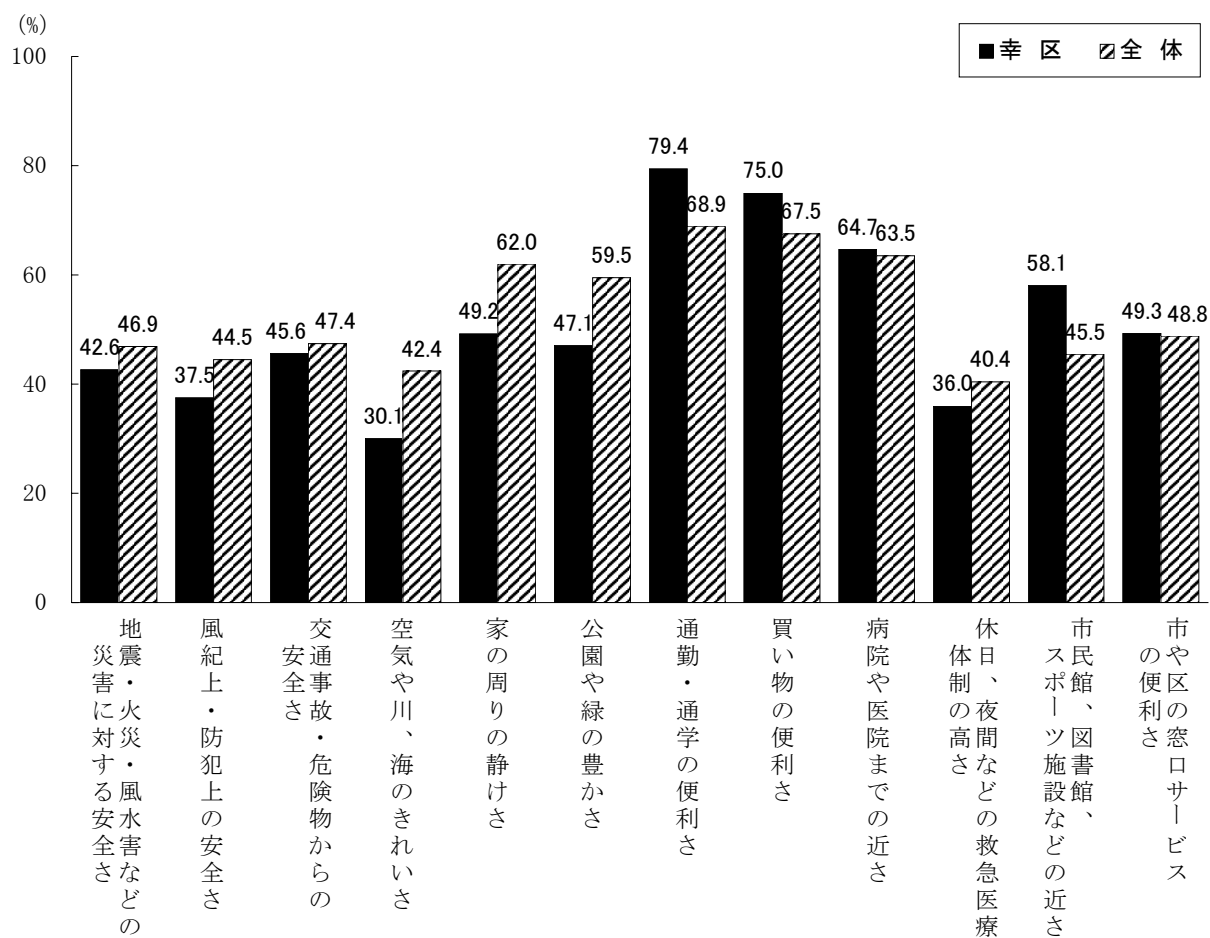


川崎区の生活環境満足度では、市全体の満足度を上回っているのは、“買い物の便利さ”（83.6%）、“病院や医院までの近さ”（83.0%）、“通勤・通学の便利さ”（77.2%）、“市や区の窓口サービスの便利さ”（56.1%）、“休日、夜間などの救急医療体制の高さ”（55.5%）、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（52.1%）となっている。一方、『自然環境』の3項目、“交通事故・危険物からの安全さ”は市全体の満足度を10ポイント以上下回っている。（図表2-4）

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
幸 区	42.6	37.5	45.6	30.1	49.2	47.1	79.4	75.0	64.7	36.0	58.1	49.3
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8

【幸区生活環境満足度】

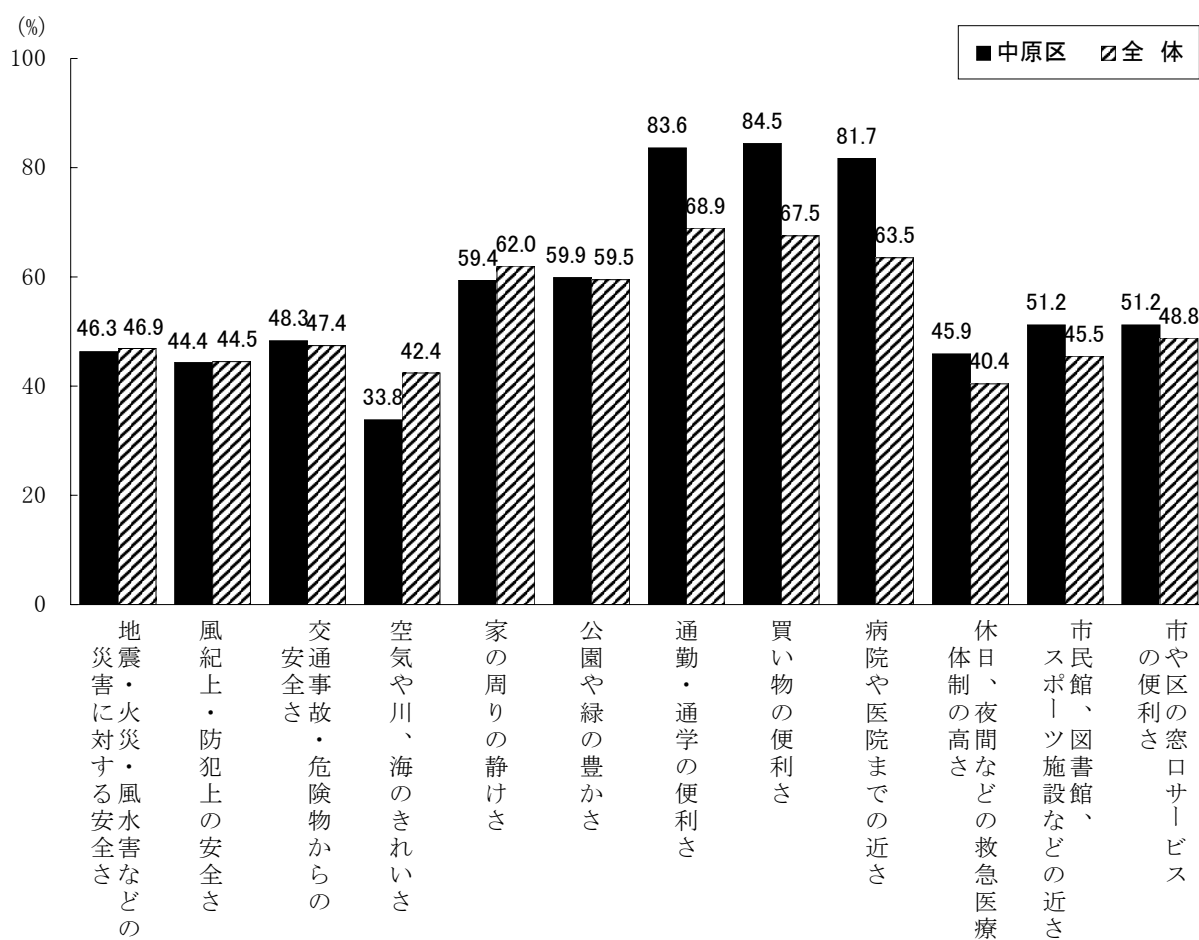


幸区の生活環境満足度では、市全体の満足度を上回っているのは、“通勤・通学の便利さ”（79.4%）、“買い物の便利さ”（75.0%）、“病院や医院までの近さ”（64.7%）、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（58.1%）、“市や区の窓口サービスの便利さ”（49.3%）となっている。一方、『自然環境』の3項目は、市全体の満足度を10ポイント以上下回っている。

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
中原区	46.3	44.4	48.3	33.8	59.4	59.9	83.6	84.5	81.7	45.9	51.2	51.2
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8

【中原区生活環境満足度】

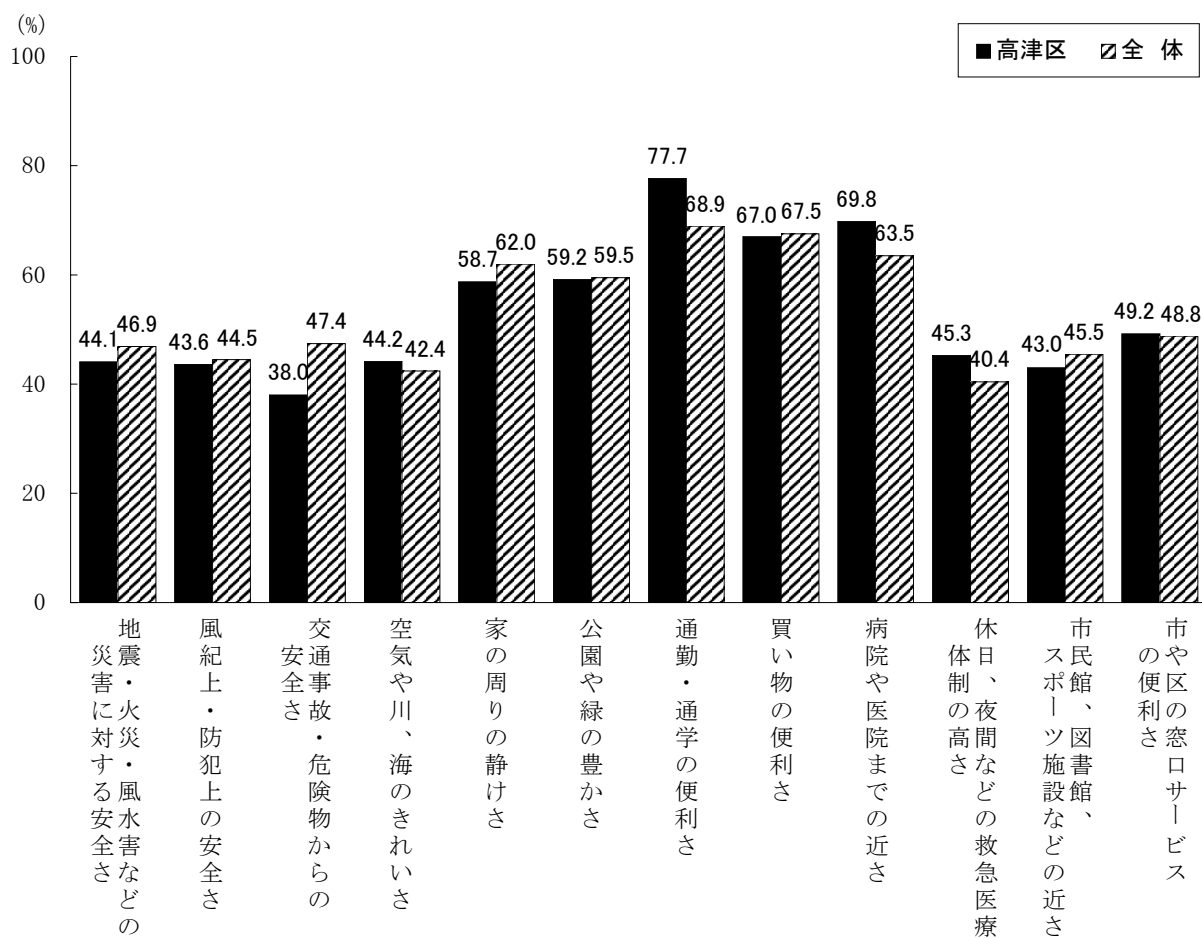


中原区の生活環境満足度では、“買い物の便利さ” (84.5%)、“通勤・通学の便利さ” (83.6%)、“病院や医院までの近さ” (81.7%) の『利便性』が、市全体の満足度を 10 ポイント以上上回っている。一方、“空気や川、海のきれいさ” (33.8%) は市全体の満足度を 10 ポイント近く下回っている。

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
高津区	44.1	43.6	38.0	44.2	58.7	59.2	77.7	67.0	69.8	45.3	43.0	49.2
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8

【高津区生活環境満足度】

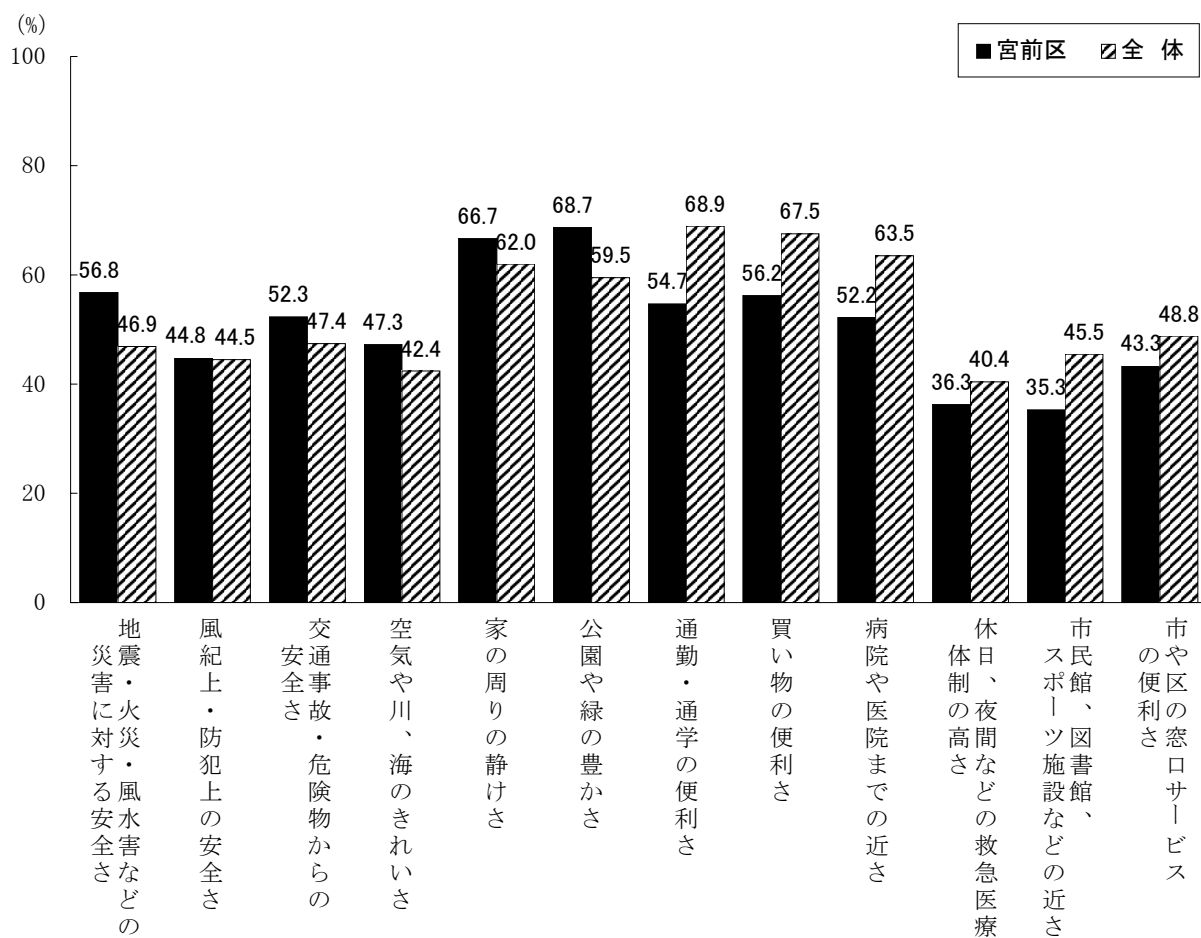


高津区の生活環境満足度では、市全体の満足度を上回っているのは、“通勤・通学の便利さ” (77.7%)、“病院や医院までの近さ” (69.8%)、“市や区の窓口サービスの便利さ” (49.2%)、“休日、夜間などの救急医療体制の高さ” (45.3%)、“空気や川、海のきれいさ” (44.2%) となっている。一方、“交通事故・危険物からの安全さ” (38.0%) は市全体の満足度を 10 ポイント近く下回っている。

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
宮前区	56.8	44.8	52.3	47.3	66.7	68.7	54.7	56.2	52.2	36.3	35.3	43.3
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8

【宮前区生活環境満足度】

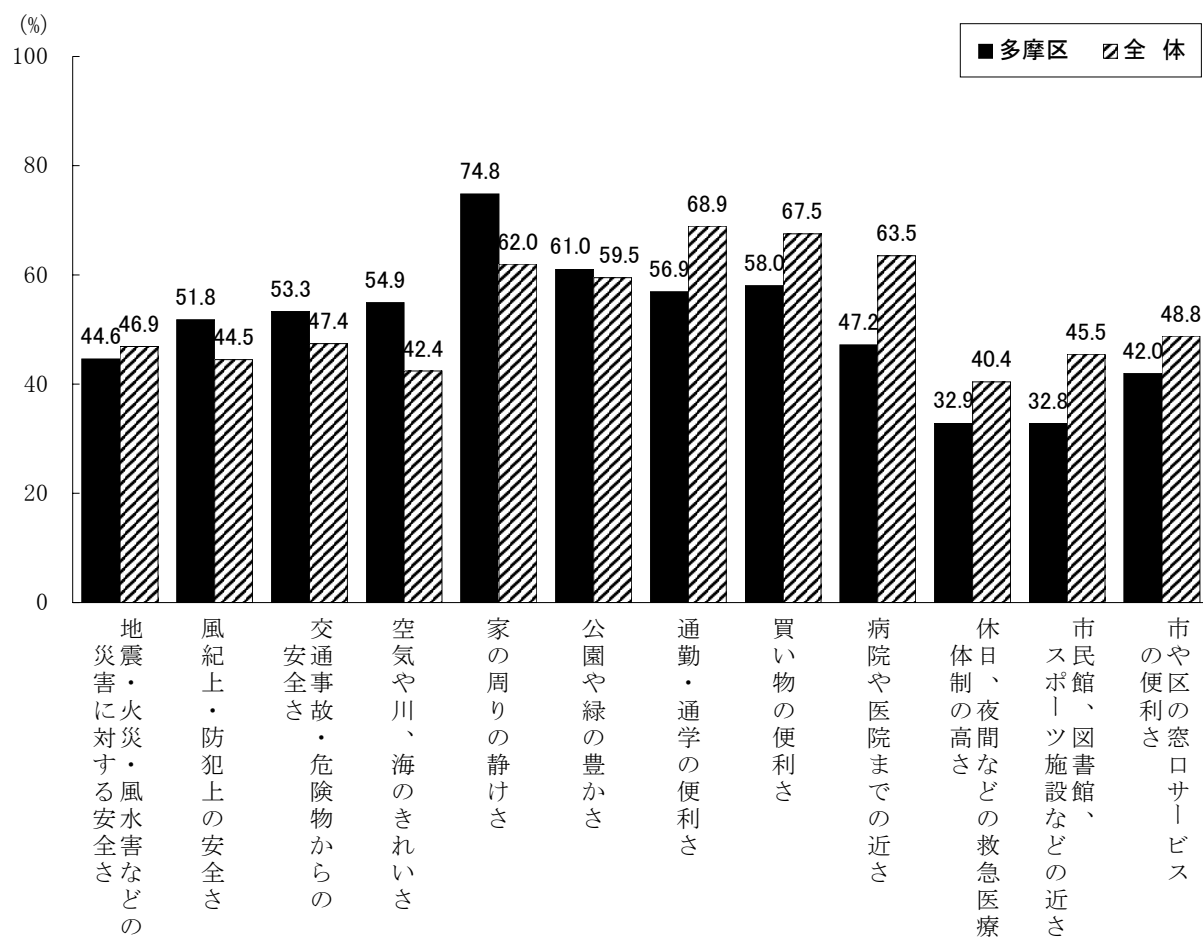


宮前区の生活環境満足度では、“公園や緑の豊かさ”（68.7%）、“地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ”（56.8%）が、市全体の満足度を10ポイント近く上回っている。一方、“買い物の便利さ”（56.2%）、“通勤・通学の便利さ”（54.7%）、“病院や医院までの近さ”（52.2%）の『利便性』、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（35.3%）が、市全体の満足度を10ポイント以上下回っている。

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
多摩区	44.6	51.8	53.3	54.9	74.8	61.0	56.9	58.0	47.2	32.9	32.8	42.0
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8

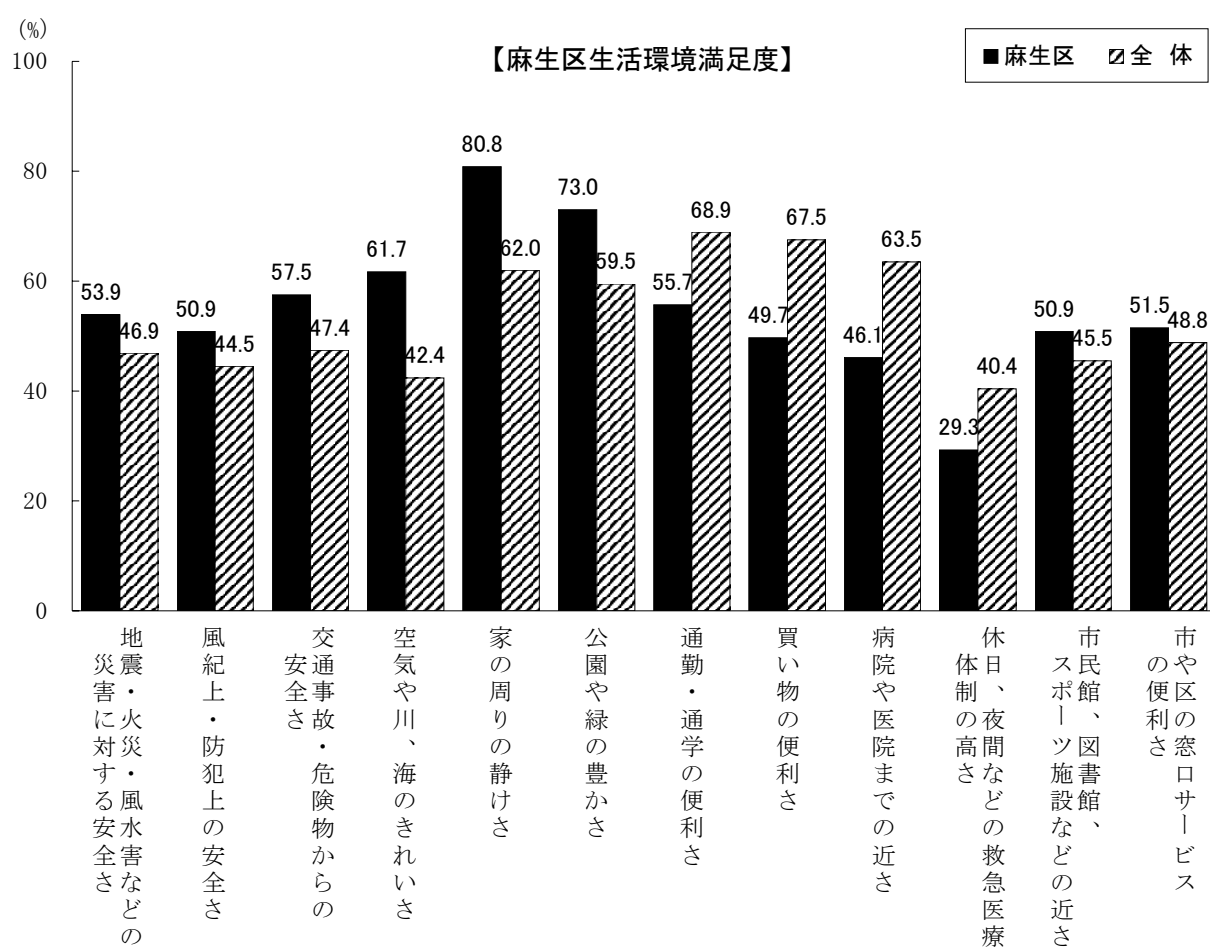
【多摩区生活環境満足度】



多摩区の生活環境満足度では、“家の周りの静けさ”（74.8%）、“空気や川、海のきれいさ”（54.9%）が、市全体の満足度を10ポイント以上上回っている。一方、『利便性』、『サービス』はすべての項目で市全体の満足度を下回っている。

「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
麻生区	53.9	50.9	57.5	61.7	80.8	73.0	55.7	49.7	46.1	29.3	50.9	51.5
全 体	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8



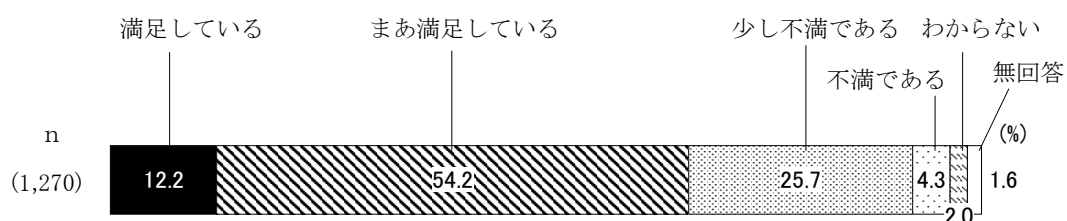
麻生区的生活環境満足度では、『安全性』、『自然環境』、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”、“市や区の窓口サービスの便利さ”が、市全体の満足度を上回っている。特に、“家の周りの静けさ”(80.8%)、“空気や川、海のきれいさ”(61.7%)では市全体の満足度を15ポイント以上上回っている。一方、『利便性』、“休日、夜間などの救急医療体制の高さ”が、市全体の満足度を10ポイント以上下回っている。

2-2 総合的な生活環境の満足度

◎ <満足>が66.4%

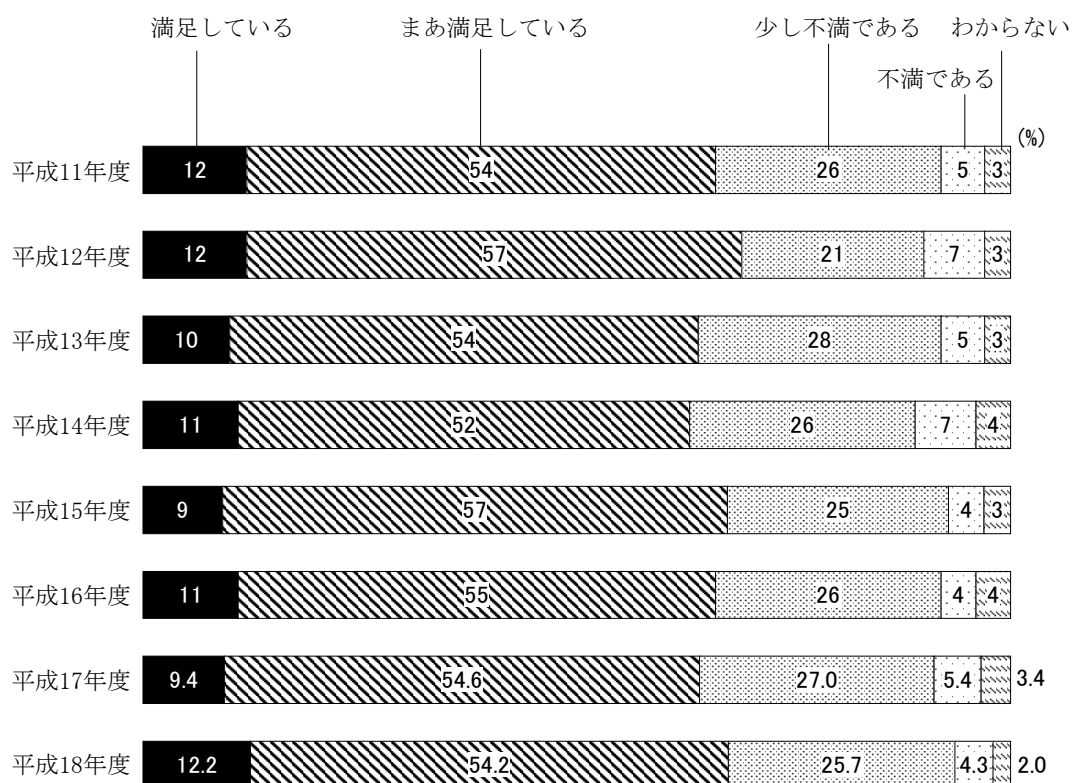
問4 地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域に、どの程度満足していますか。
(○は1つ)

図表2-5 総合的な生活環境の満足度



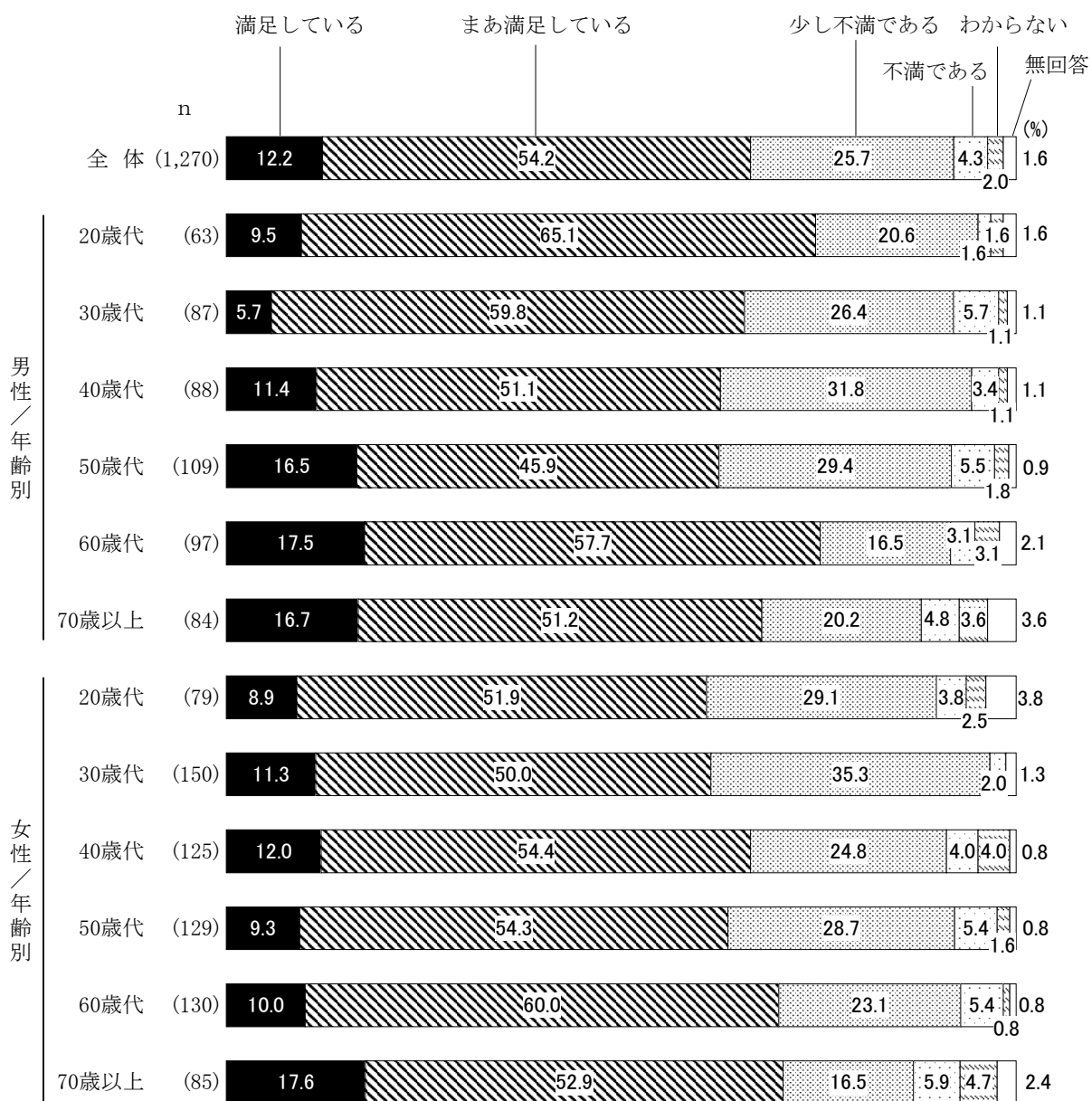
総合的な生活環境は、「満足している」(12.2%)と「まあ満足している」(54.2%)をあわせた<満足>が66.4%、「少し不満である」(25.7%)と「不満である」(4.3%)をあわせた<不満>は30.0%となっている。(図表2-5)

図表 2－6 総合的な生活環境の満足度（経年比較）



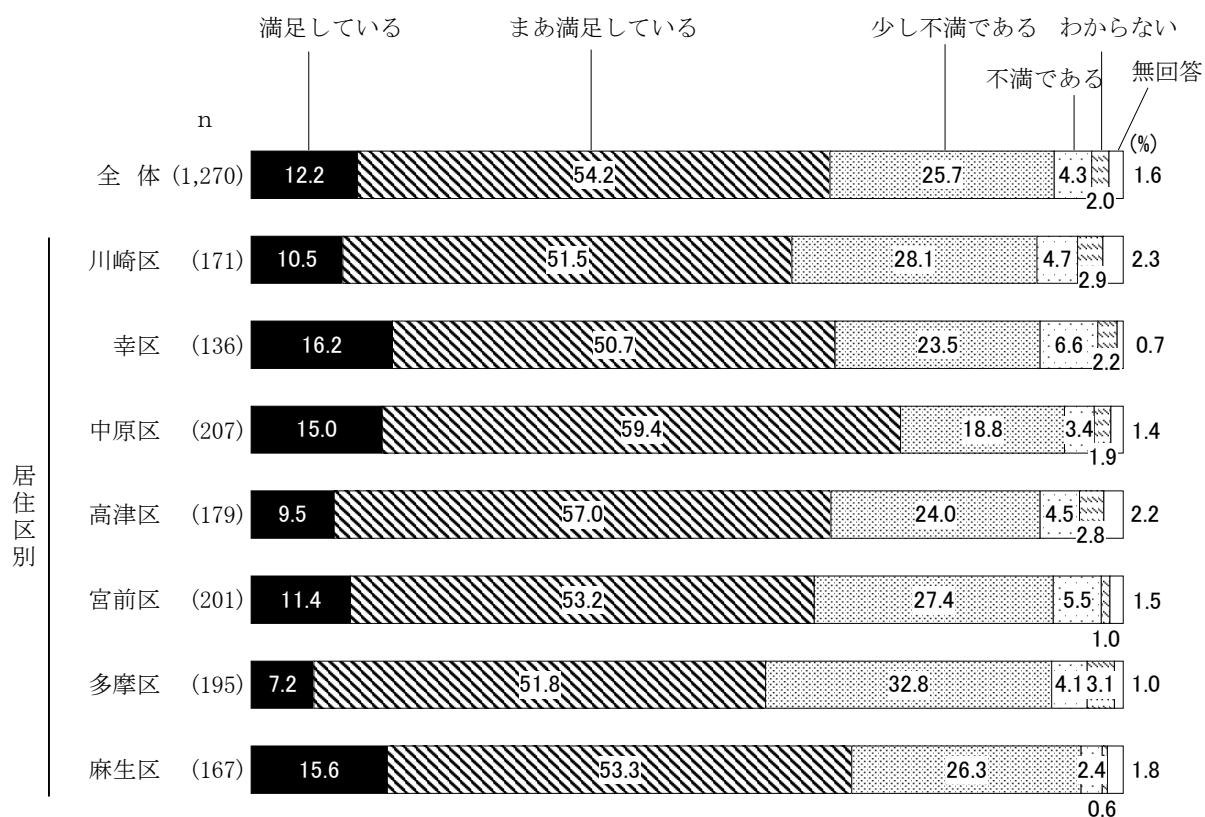
過去の推移では、平成 17 年度の満足度（64.0%）と比較すると平成 18 年度の満足度（66.4%）は 2.4 ポイント増えている。（図表 2－6）

図表 2-7 総合的な生活環境の満足度（性／年齢別）



性／年齢別では、満足度の割合は男性の20歳代と60歳代で7割台半ば、女性の60歳以上で7割と多くなっている。(図表2-7)

図表2-8 総合的な生活環境の満足度（居住区別）



居住区別では、満足度の割合は中原区が7割台半ばで最も多い。一方、多摩区は6割未満と最も少なくなっている。(図表2-8)

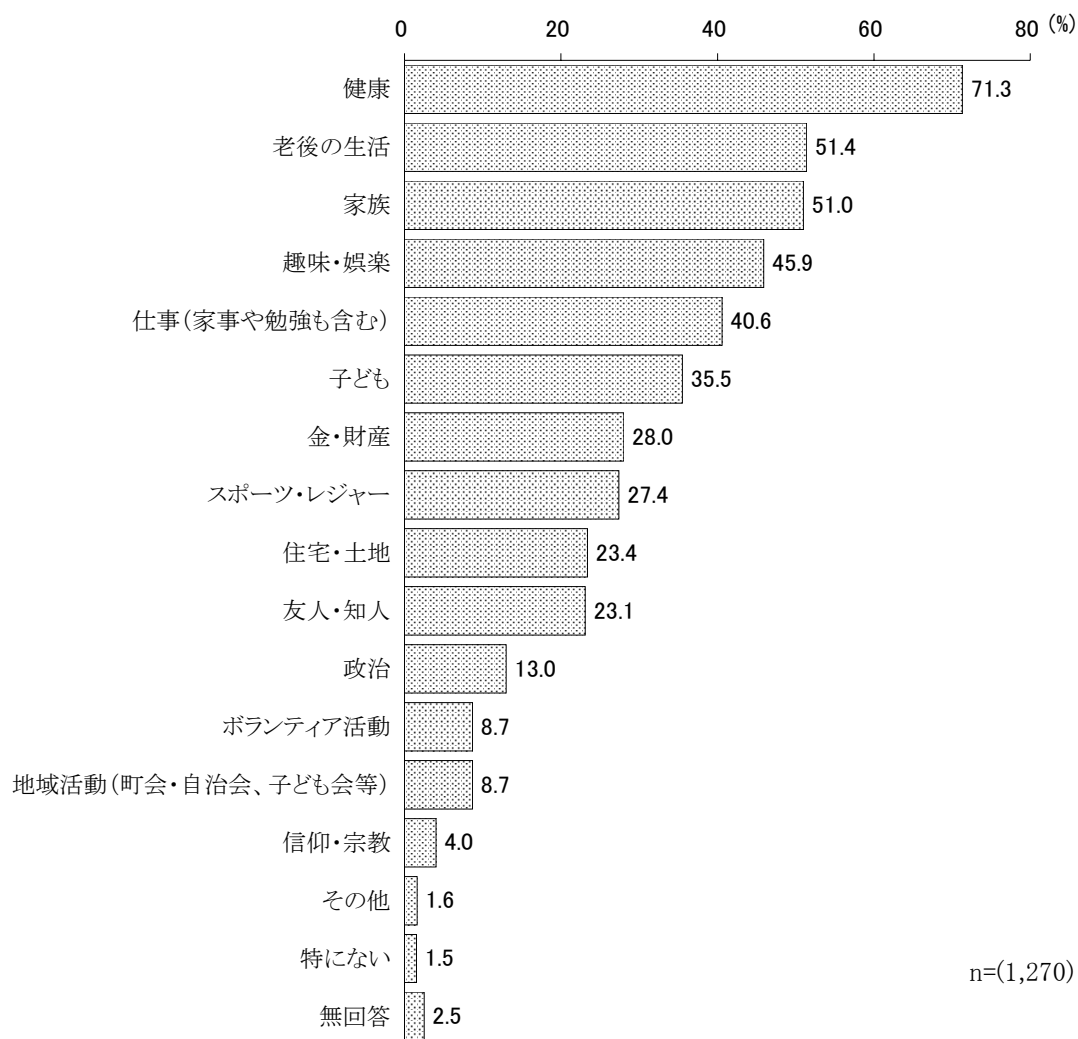
3 関心ごとと行動範囲について

3-1 関心を持っていること

◎ 「健康」が71.3%、「老後の生活」と「家族」が過半数

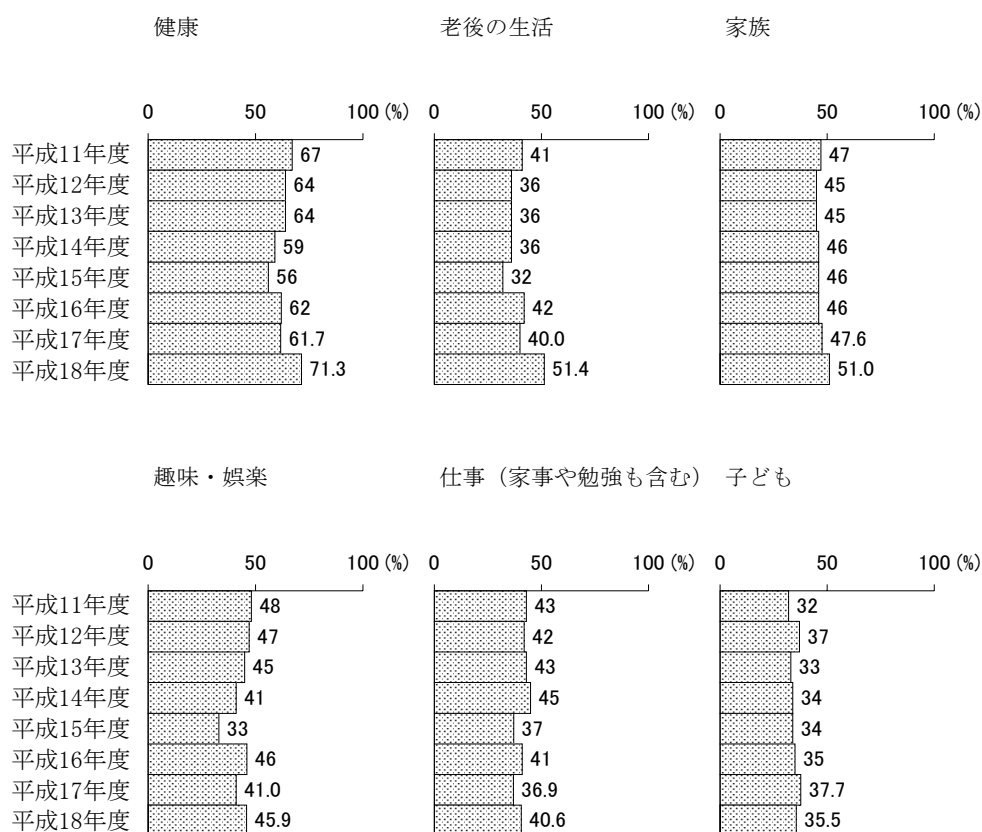
問5 あなたが、現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-1 関心を持っていること



現在の関心事は、「健康」が71.3%と最も多く、次に「老後の生活」(51.4%)、「家族」(51.0%)が半数を超えている。以下、「趣味・娯楽」(45.9%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(40.6%)、「子ども」(35.5%)と続いている。(図表3-1)

図表3-2 関心を持っていること（経年比較、上位6項目）

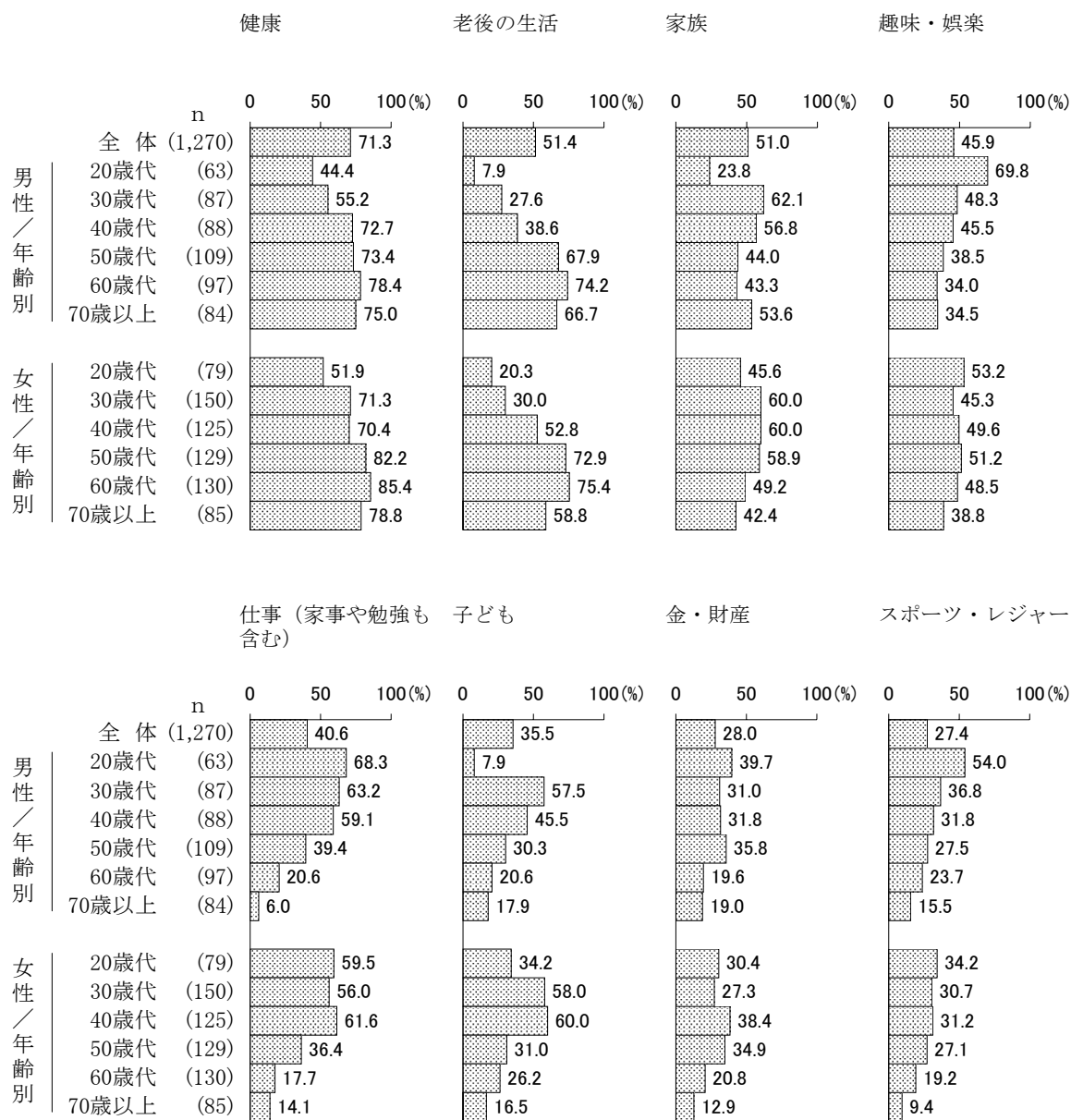


(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成11年度	健康 66.5	趣味・娯楽 47.5	家族 46.6	仕事(家事や勉強も含む) 42.6	老後の生活 40.7	子ども 31.8
平成12年度	健康 64.1	趣味・娯楽 46.5	家族 45.4	仕事(家事や勉強も含む) 42.4	子ども 37.2	老後の生活 36.1
平成13年度	健康 64.3	家族 45.4	趣味・娯楽 45.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.3	老後の生活 35.6	子ども 32.9
平成14年度	健康 59.0	家族 45.8	仕事(家事や勉強も含む) 44.9	趣味・娯楽 41.1	老後の生活 36.2	子ども 34.4
平成15年度	健康 55.7	家族 46.0	仕事(家事や勉強も含む) 36.9	子ども 34.1	趣味・娯楽 32.9	老後の生活 31.7
平成16年度	健康 61.8	家族／趣味・娯楽 45.7		老後の生活 41.7	仕事(家事や勉強も含む) 41.1	子ども 34.5
平成17年度	健康 61.7	家族 47.6	趣味・娯楽 41.0	老後の生活 40.0	子ども 37.7	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成18年度	健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5

過去の推移では、「子ども」を除いた上位5項目で割合が増加し、特に「老後の生活」で11.4ポイント、「健康」で9.6ポイント増加している。「老後の生活」が第4位から第2位となっている。(図表3-2)

図表 3-3 関心を持っていること（性／年齢別、上位8項目）



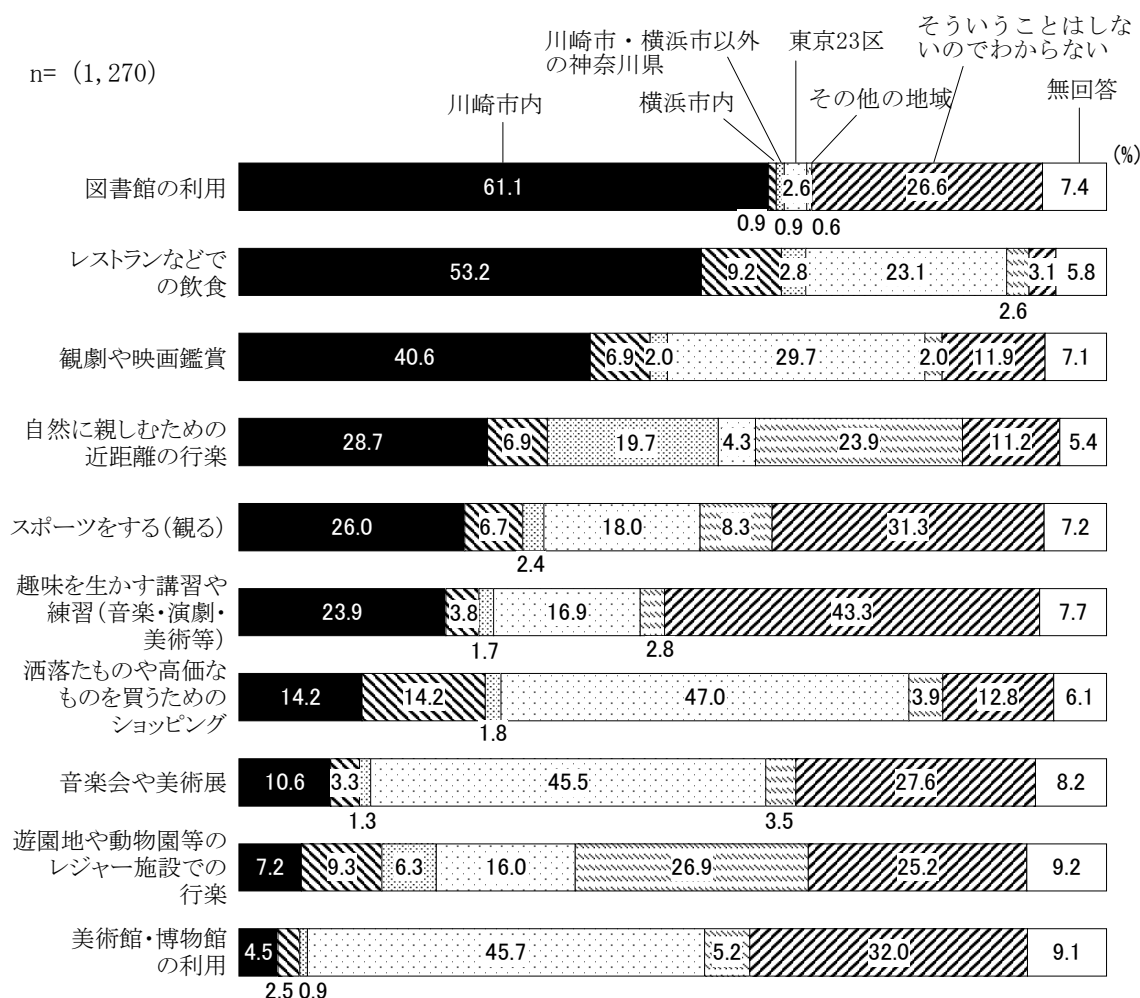
性／年齢別では、「健康」と「老後の生活」は男女ともに年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。「家族」は男性の30歳代、女性の30～40歳代で6割となっている。「趣味・娯楽」は男性の20歳代で7割近く。「仕事」は男女ともに20～40歳代が多い。「子ども」は男性の30歳代、女性の30～40歳代で6割前後となっている。「スポーツ・レジャー」は男性の20歳代で半数を超えている。（図表3-3）

3-2 行動範囲

◎ 「川崎市内」が多いのは“図書館の利用”、“レストランなどでの飲食”、“東京23区”が多いのは、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”、“美術館・博物館の利用”、“音楽会や美術展”

問6 あなたは、行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図表3-4 行動範囲

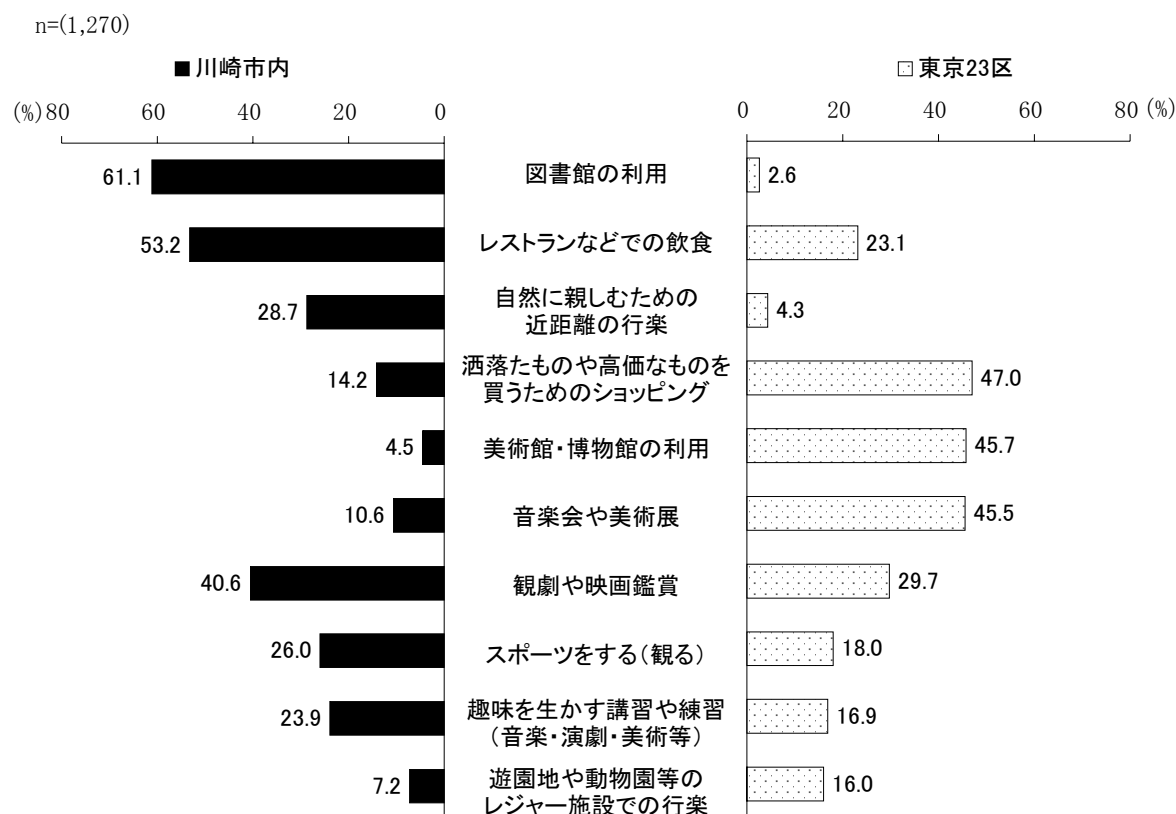


川崎市民の行動範囲は、「川崎市内」が最も多かったのは、“図書館の利用”(61.1%)で、“レストランなどでの飲食”(53.2%)が半数を超えている。また、“観劇や映画鑑賞”(40.6%)についても市内の割合が多い。一方、「東京23区」が多いのは、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”(47.0%)、“美術館・博物館の利用”(45.7%)、“音楽会や美術展”(45.5%)となっている。(図表3-4)

市民の行動範囲、10項目中“遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽”を除いては「川崎市内」または「東京23区」の割合の多いことから、分類すると以下のようになる。(図表3-5)

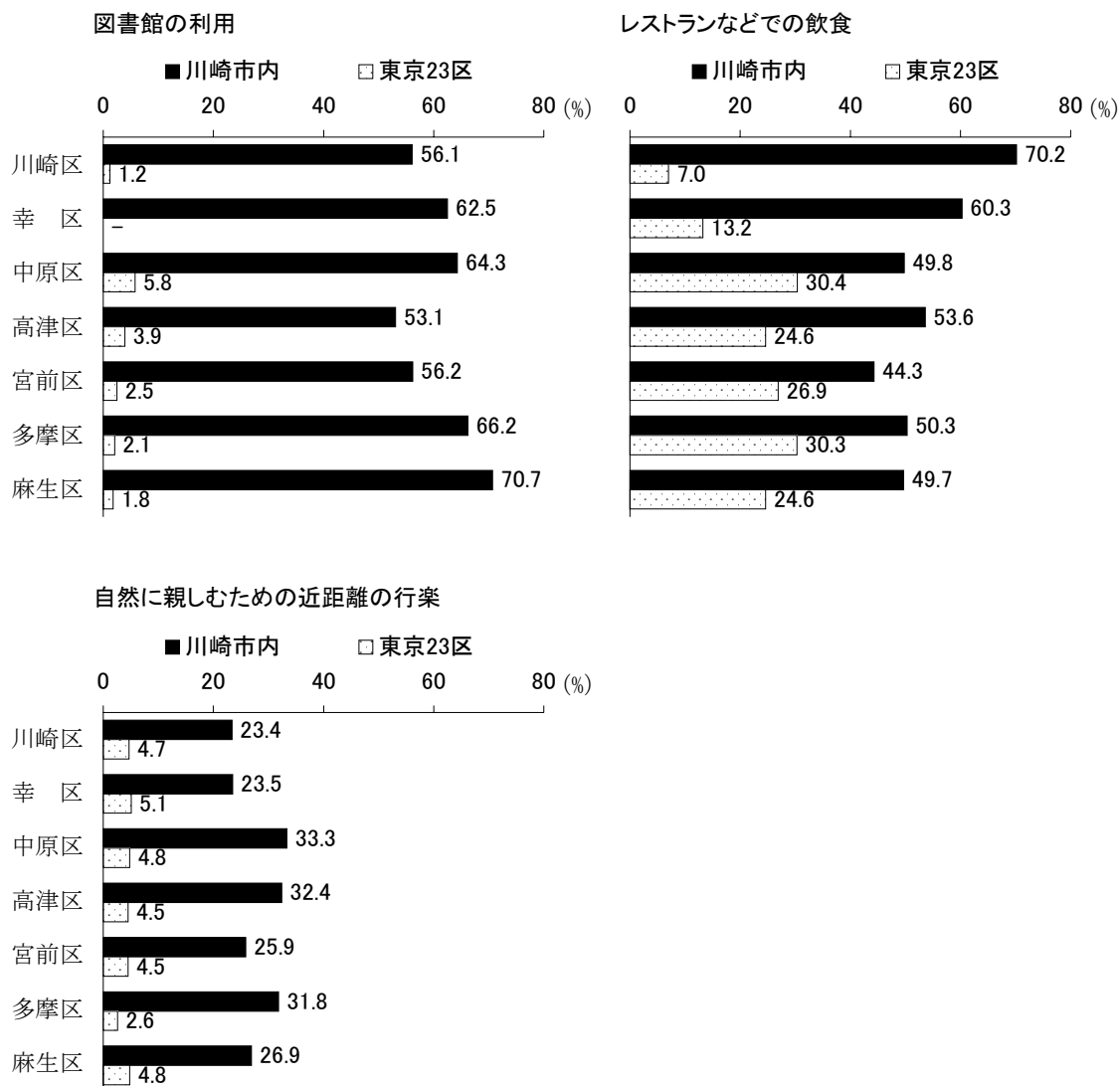
- 【川崎市内型】…………… 図書館の利用
レストランなどでの飲食
自然に親しむための近距離の行楽
- 【東京都23区内型】…… 洒落たものや高価なものを買うためのショッピング
美術館・博物館の利用
音楽会や美術展
- 【非限定型】…………… 観劇や映画鑑賞
スポーツをする(観る)
趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)
遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽

図表3-5 行動範囲(「川崎市内」と「東京23区」との比較)



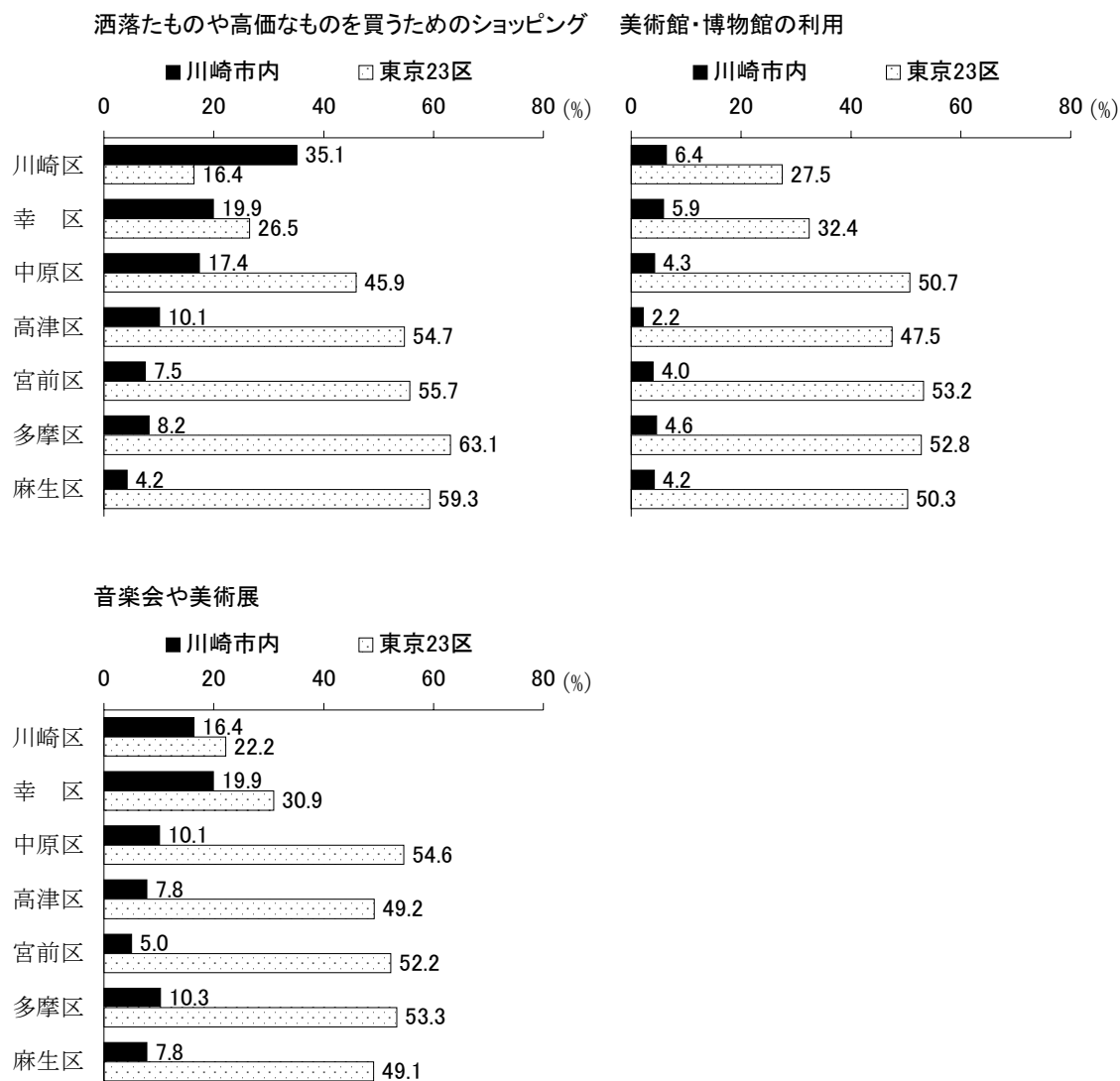
図表3-6 行動範囲(「川崎市内」と「東京23区」との比較、居住区別)

【川崎市内型】



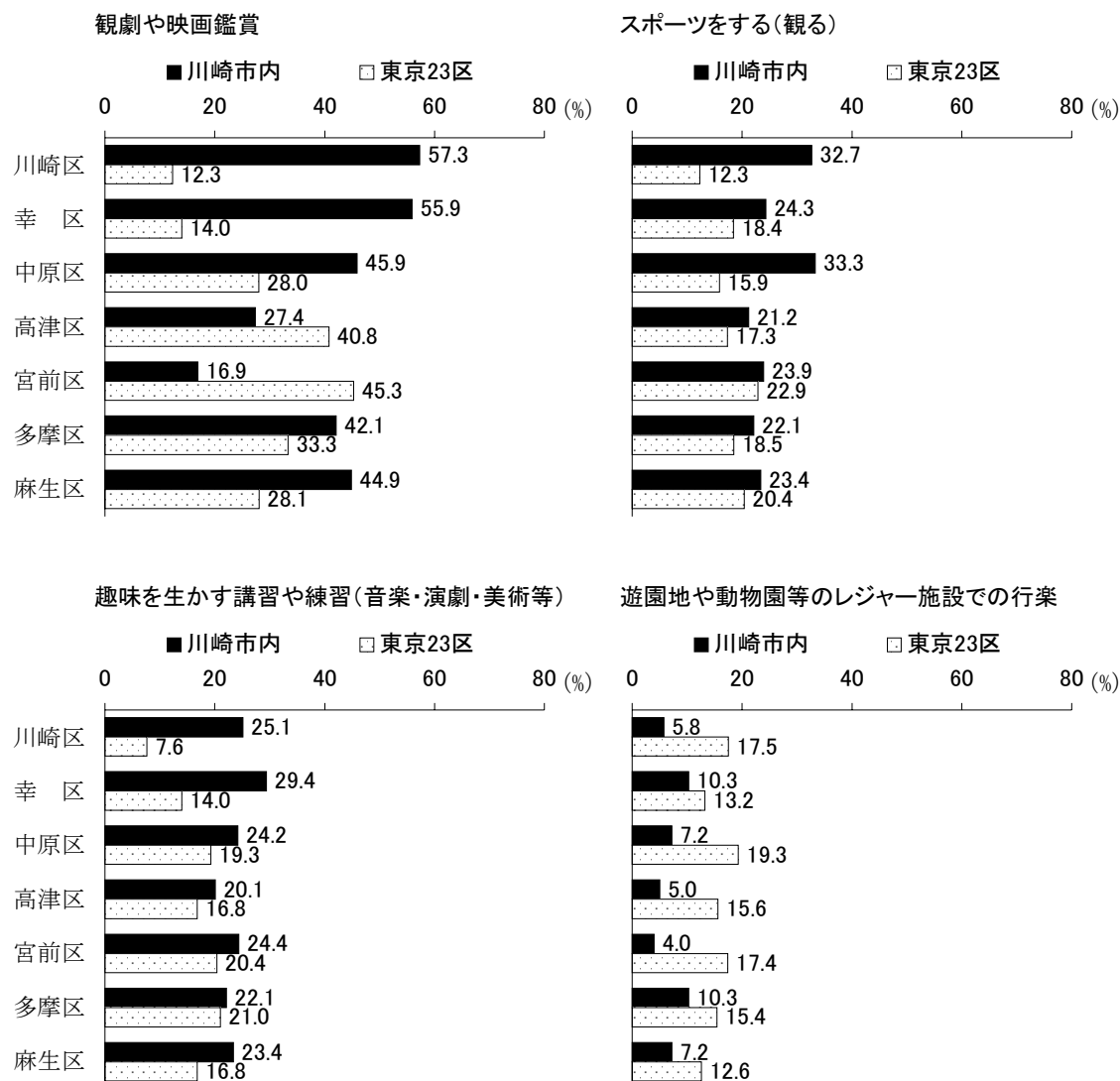
【川崎市内型】に分類した「川崎市内」での利用率の高い3項目を、居住区別に比較すると、「図書館の利用」は川崎市内での利用率が高い項目であり、特に麻生区が70.7%と7割に達し、幸区、中原区、多摩区でも6割台と多くなっている。「レストランなどでの飲食」は川崎区が70.2%と7割に達し、幸区でも6割と多くなっている。ただし、中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区では、「東京23区」での利用も比較的多くなっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は中原区、高津区、多摩区で3割を超えている。(図表3-6)

【東京都23区内型】



【東京都23区内型】に分類した「東京23区」での利用率の高い3項目を、居住区別に比較すると、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”は多摩区が63.1%で最も多く、高津区、宮前区、麻生区でも半数を超えている。ただし、川崎区では「川崎市内」での利用率が東京23区よりも多くなっている。“美術館・博物館の利用”は中原区、宮前区、多摩区、麻生区で東京23区の利用率が半数を超えて多い。“音楽会や美術展”は中原区、宮前区、多摩区で「東京23区」の利用率が半数を超えている。

【非限定型】



【非限定型】に分類した「川崎市内」や「東京 23 区」と限定せずに平均的な利用があると思われる 4 項目を、居住区別に比較すると、「観劇や映画鑑賞」は川崎区と幸区で「川崎市内」の利用率が半数を超え、中原区と多摩区、麻生区でも 4 割台と多くなっている。一方、高津区と宮前区は「東京 23 区内」の利用率が 4 割台で「川崎市内」を上回っている。「スポーツをする(観る)」は川崎区と中原区で「川崎市内」の利用率が 3 割を超え、「東京 23 区」を大きく上回っている。「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は川崎区と幸区で「川崎市内」の利用率が「東京 23 区」を大きく上回っている。「遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽」は、1 割台と少ない利用率ながら、いずれの区でも「東京 23 区」が「川崎市内」の利用を上回っている。

4 市政に対する評価と要望について

4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

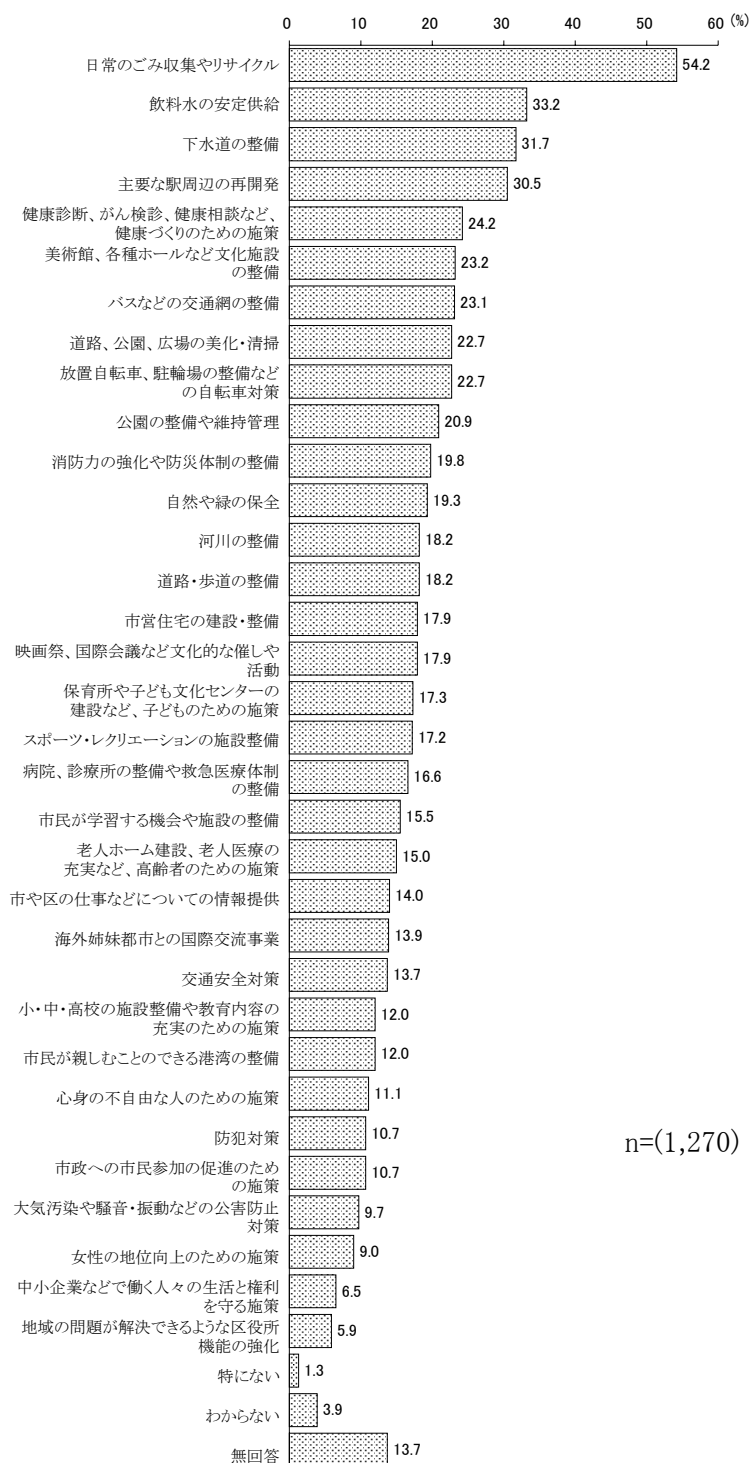
◎ 「日常のごみ収集やリサイクル」が54.2%、「飲料水の安定供給」が33.2%

問7 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。

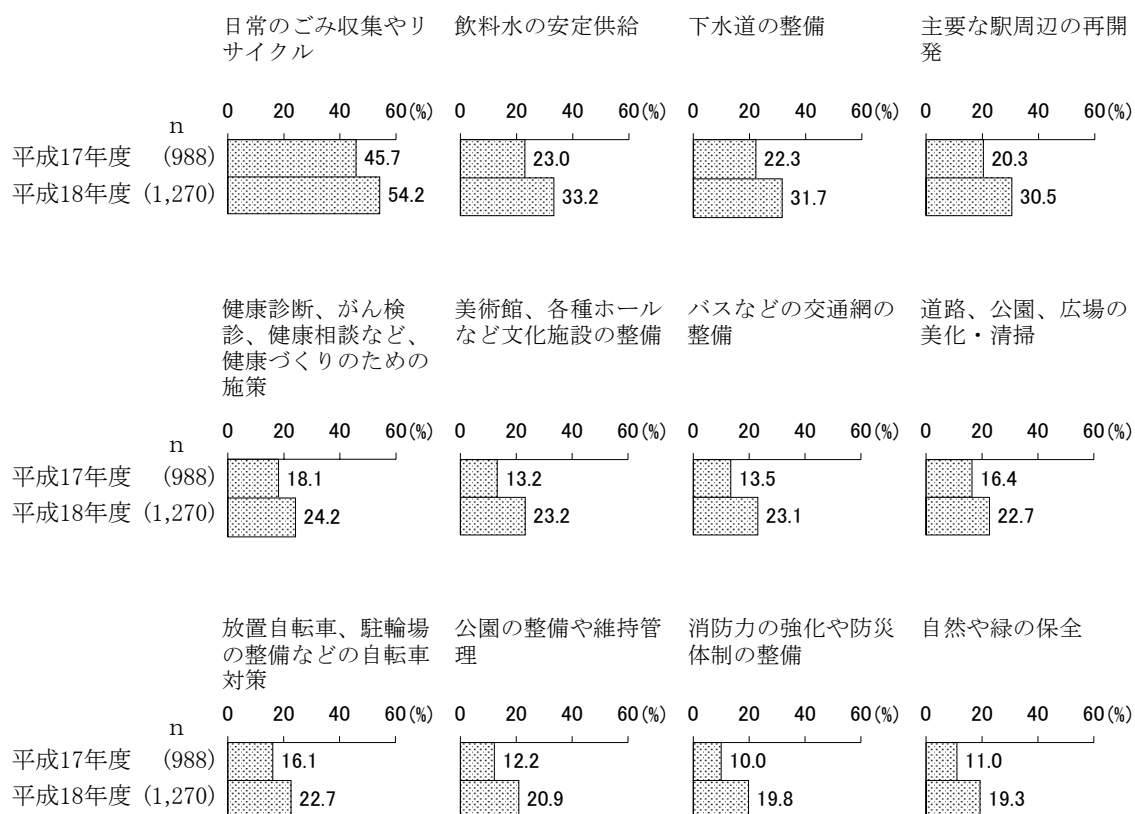
(あてはまるものすべてに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと



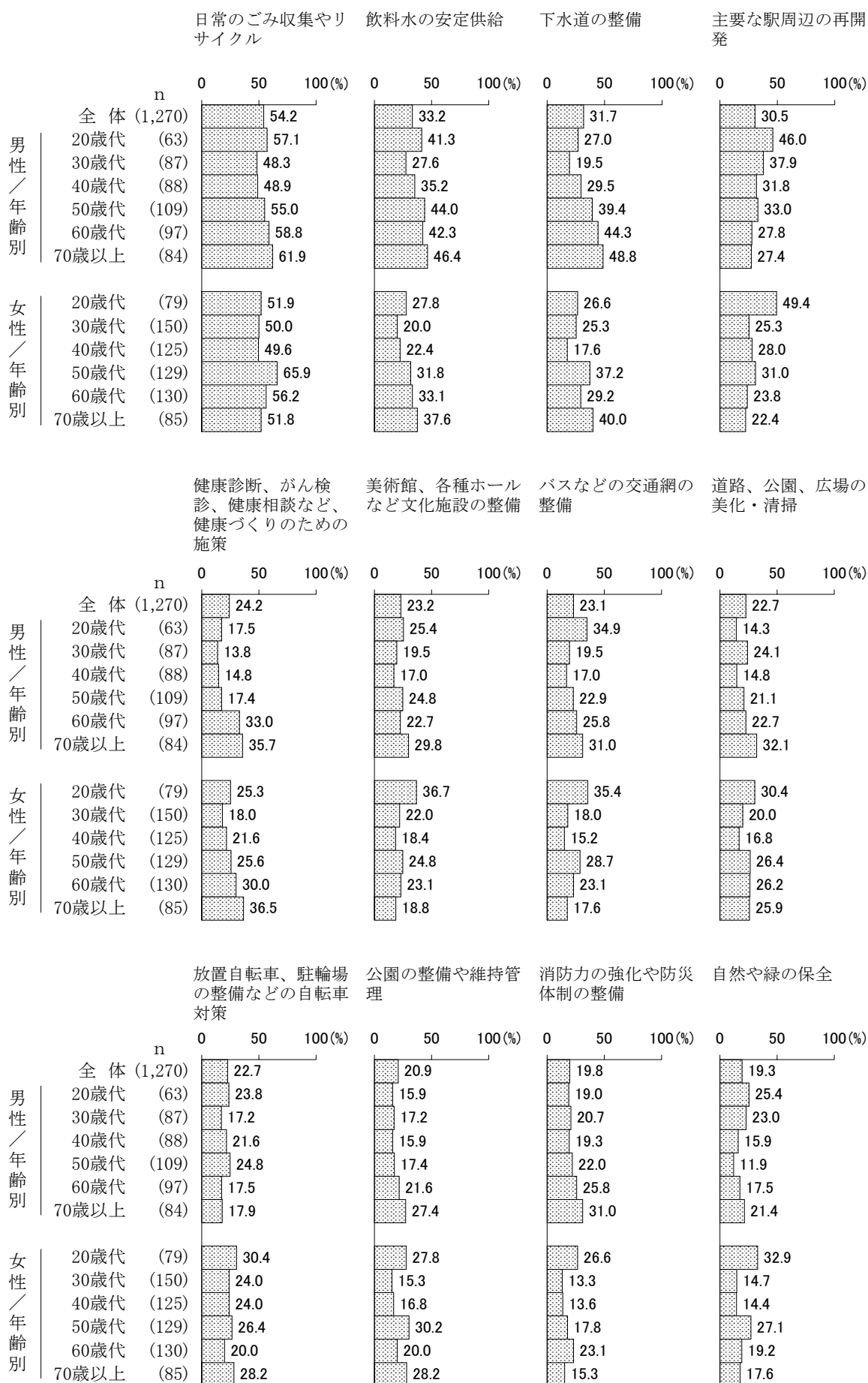
市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」(54.2%) が最も多い。次いで、「飲料水の安定供給」(33.2%)、「下水道の整備」(31.7%)、「主要な駅周辺の再開発」(30.5%) が多くなっている。(図表4-1)

図表4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと（前年比較、上位12項目）



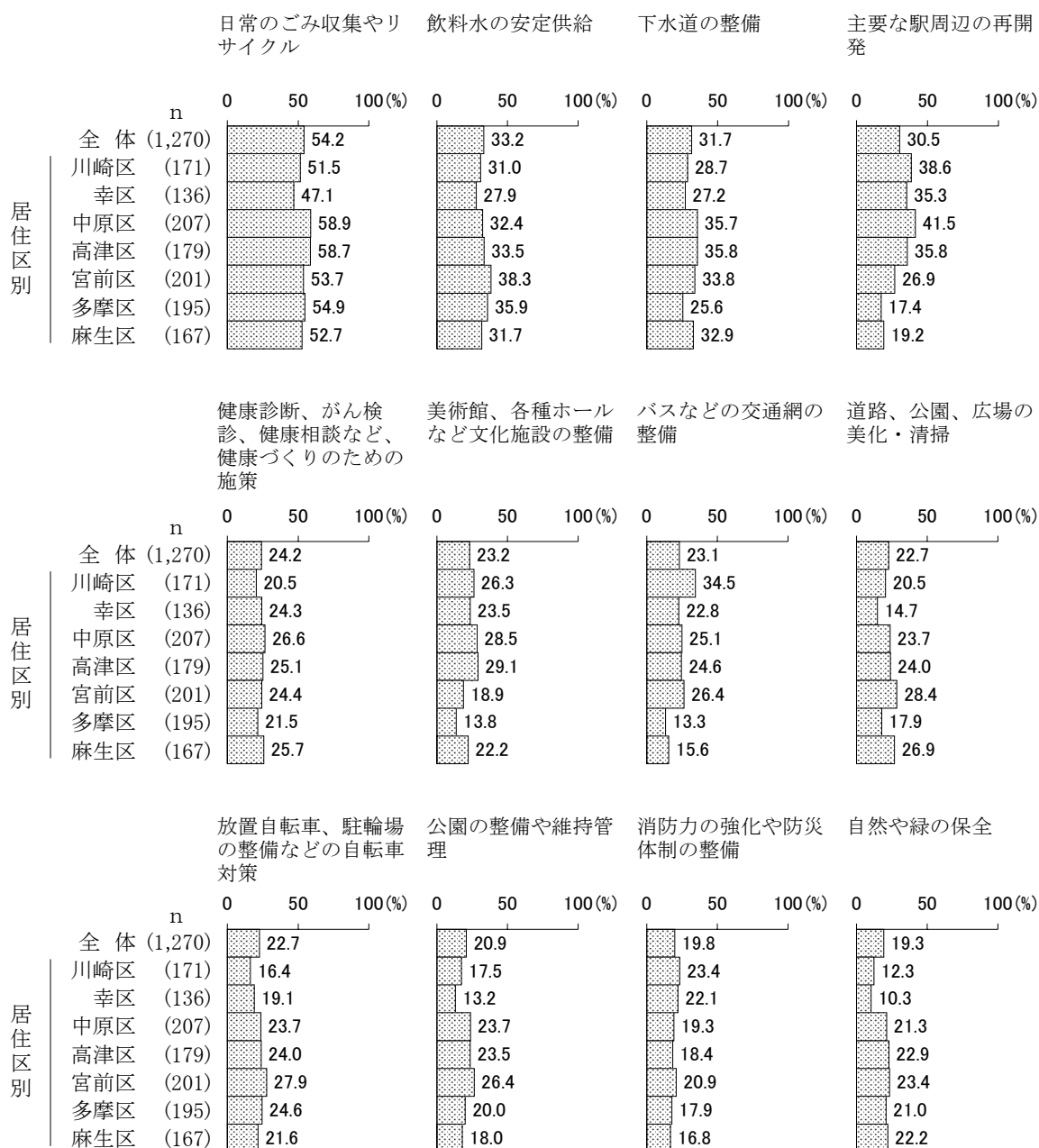
平成17年度と比較すると、すべての項目で平成17年度を上回っている。特に「飲料水の安定供給」(33.2%)、「主要な駅周辺の再開発」(30.5%)で10.2ポイント、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(23.2%)で10.0ポイント上回っている。(図表4-2)

図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと(性/年齢別、上位12項目)



性／年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は男性の70歳以上と女性の50歳代で6割台となっている。「飲料水の安定供給」は男性の50歳以上で4割台と比較的多い。「下水道の整備」は男性の60歳以上、女性の70歳以上で4割台となっている。「主要な駅周辺の再開発」は男女ともに20歳代で多く、特に女性で半数に近い。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は男女ともに年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は男性の70歳以上で3割近く、女性の20歳代で3割台半ばとなっている。「バスなどの交通網の整備」は男女ともに20歳代で3割台半ばとなっている。(図表4-3)

図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位12項目）



居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は中原区と高津区で6割近い。「飲料水の安定供給」は宮前区で4割に近い。「主要な駅周辺の再開発」は川崎区と中原区で4割前後となっている。「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は中原区と高津区で3割に近い。「バスなどの交通網の整備」は川崎区で3割台半ばとなっている。「道路、公園、広場の美化・清掃」は宮前区で3割に近い。(図表4-4)

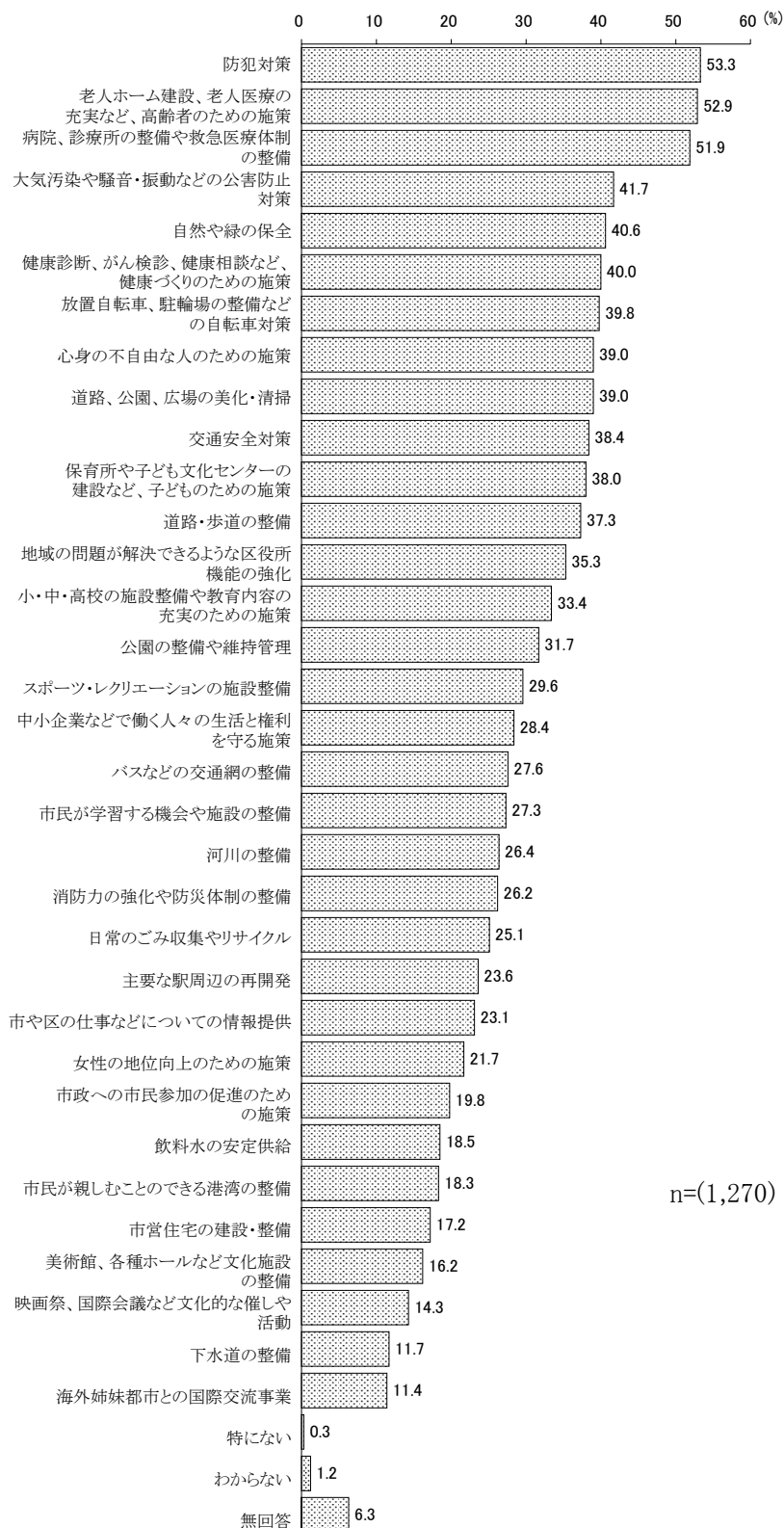
4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎ 「防犯対策」、「老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策」、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」がいずれも過半数

問8 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。

(あてはまるものすべてに○)

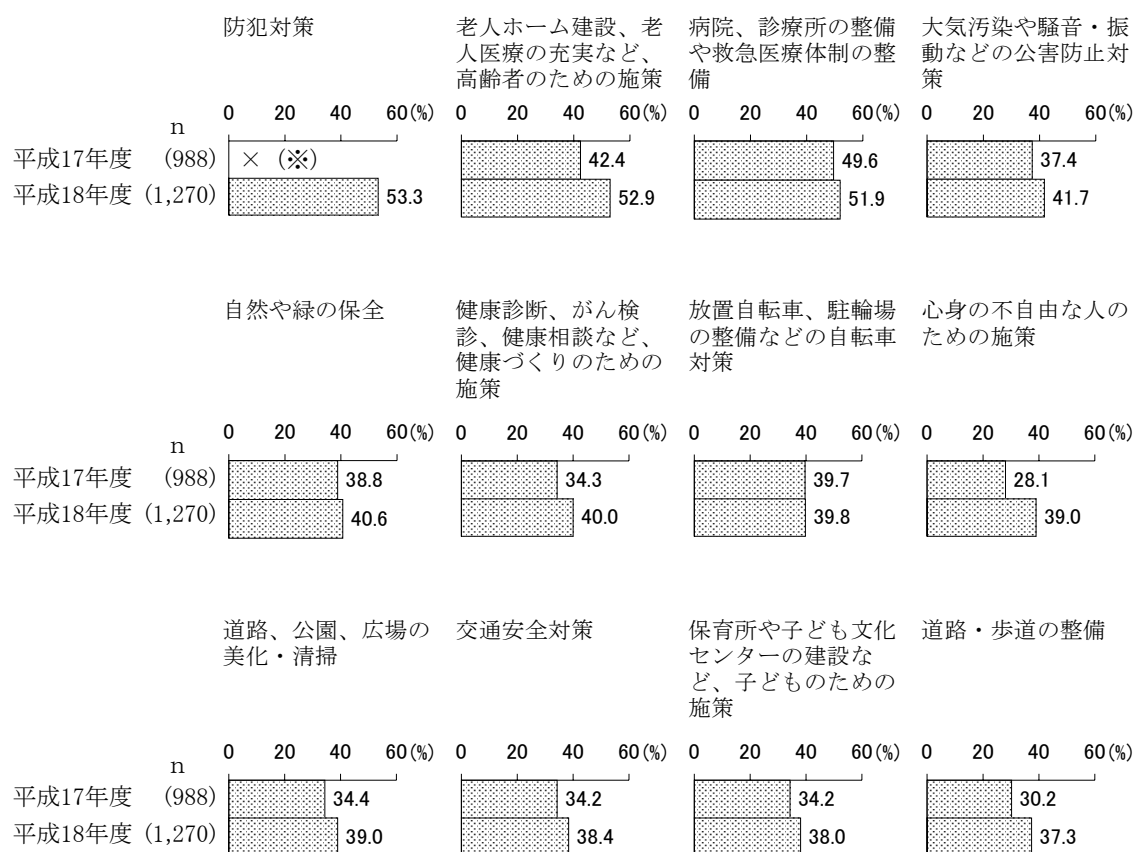
図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと



n=(1,270)

市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「防犯対策」(53.3%)、「老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策」(52.9%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(51.9%)がそれぞれ半数を超えている。(図表4-5)

図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（前年比較、上位12項目）

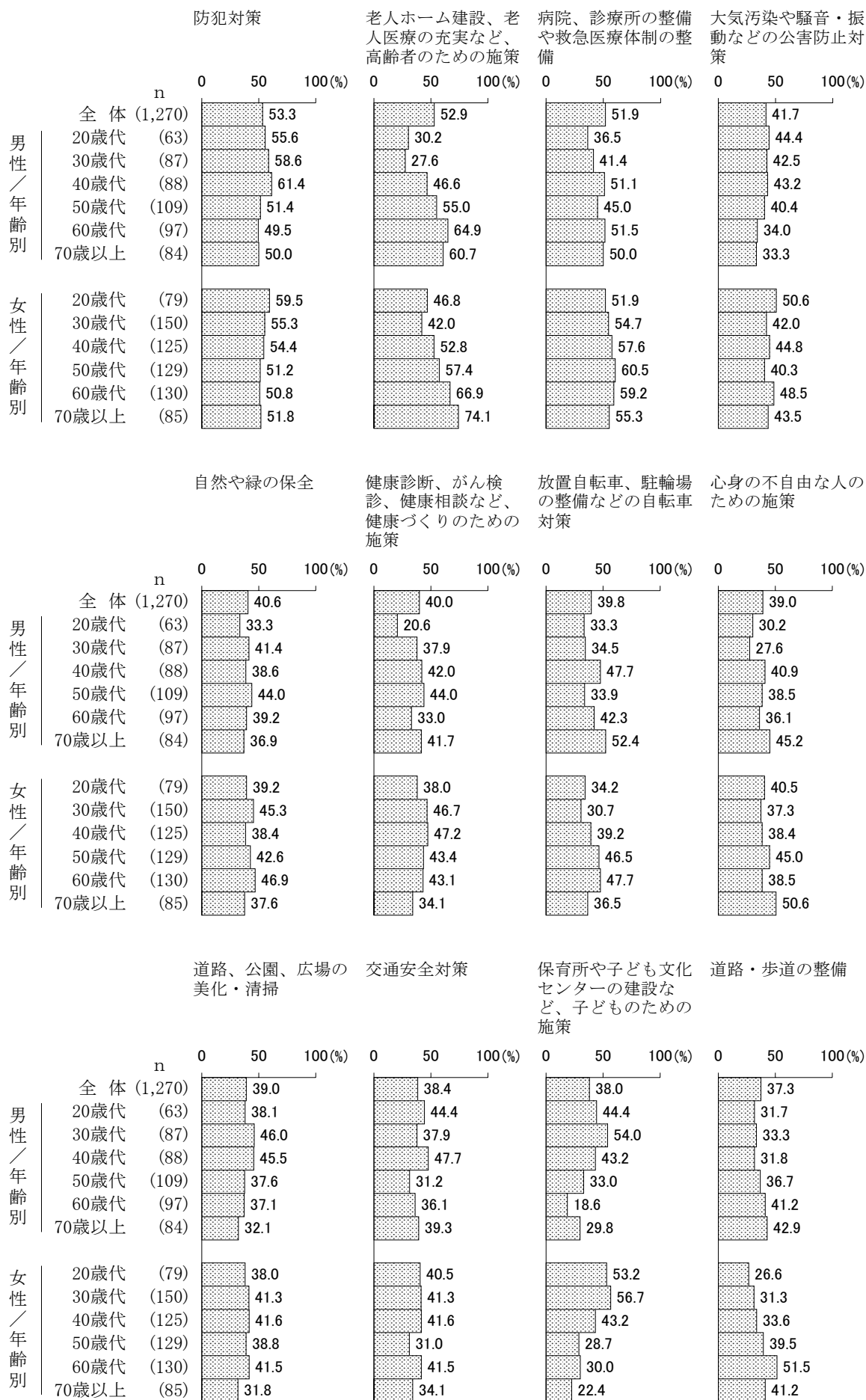


※ 「防犯対策」は、平成18年度から新たに追加された選択肢のため、比較対象外となっている。

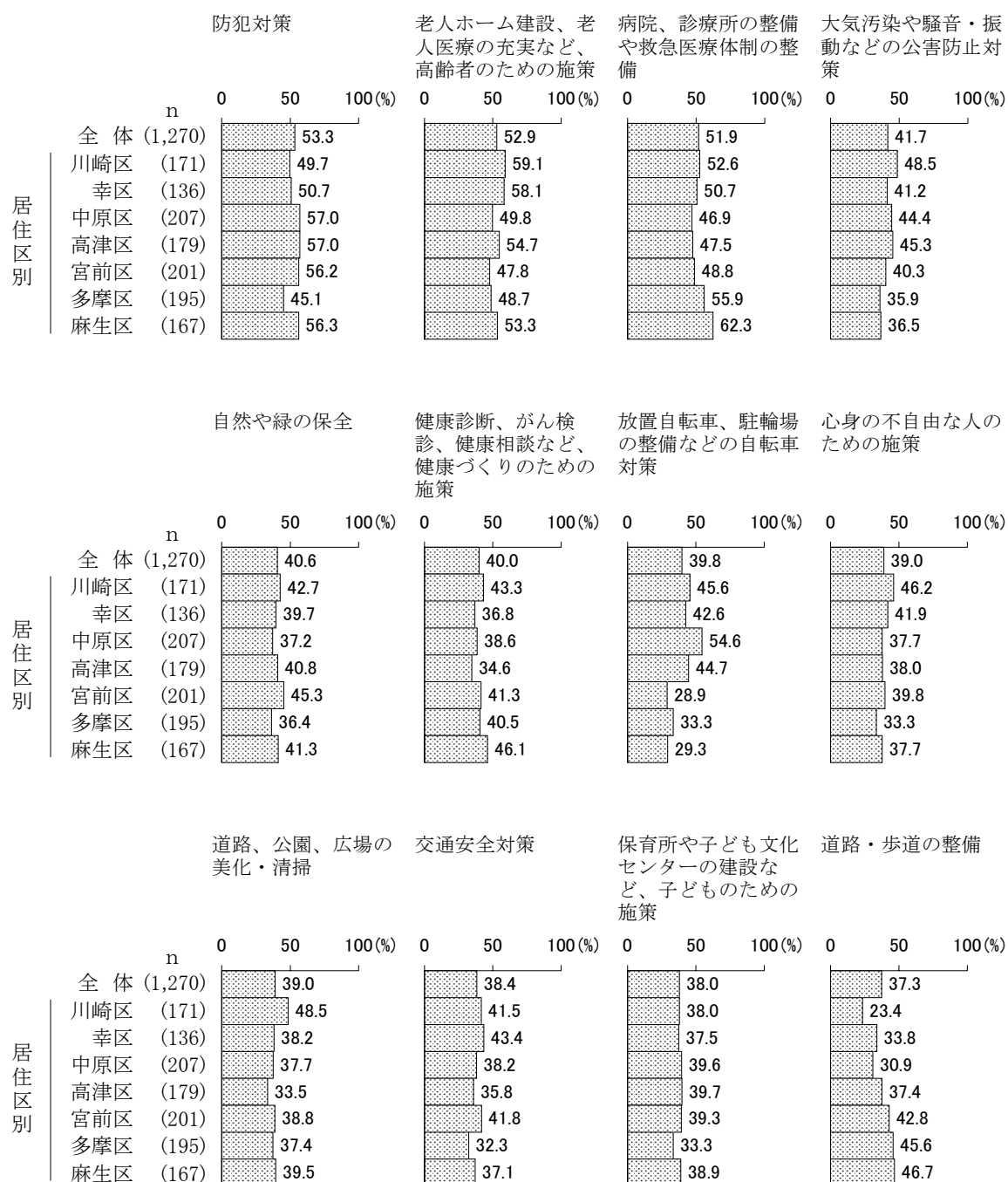
平成17年度と比較すると、すべての項目で平成17年度を上回っている。特に「心身の不自由な人のための施策」(39.0%)で10.9ポイント、「老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策」(52.9%)で10.5ポイント上回っている。(図表4-6)

性／年齢別では、「防犯対策」は男性の40歳代と女性の20歳代で6割前後となっている。「老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策」は男女ともに年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は男性よりも女性の方が全体的に割合が多くなっている。「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は男女ともに20歳代で多く、特に女性で半数となっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は男性の70歳以上で半数を超えている。「心身の不自由な人のための施策」は男女ともに70歳以上で多く、特に女性で半数となっている。「保育所や子ども文化センターの建設など、子どものための施策」は男女ともに20～40歳代で割合が多く、特に30歳代で5割台半ばとなっている。(図表4-7)

図表４－７ 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（性／年齢別、上位12項目）



図表4-8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位12項目）



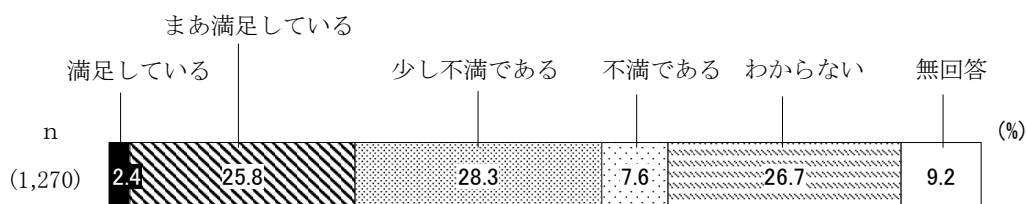
居住区別では、「老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策」は川崎区と幸区で6割に近い。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は麻生区で6割を超えている。「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は川崎区で半数に近い。「自然や緑の保全」は宮前区で4割台半ばとなっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は川崎区と麻生区で4割台半ばとなっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は中原区で半数を超えている。「心身の不自由な人のための施策」は川崎区で4割台半ばとなっている。「道路、公園、広場の美化・清掃」は川崎区で5割に近い。「道路・歩道の整備」は多摩区、麻生区で4割台半ばとなっている。(図表4-8)

4－3 施策や事業の総合的な満足度

◎ <満足>は28.2%、<不満>は35.9%

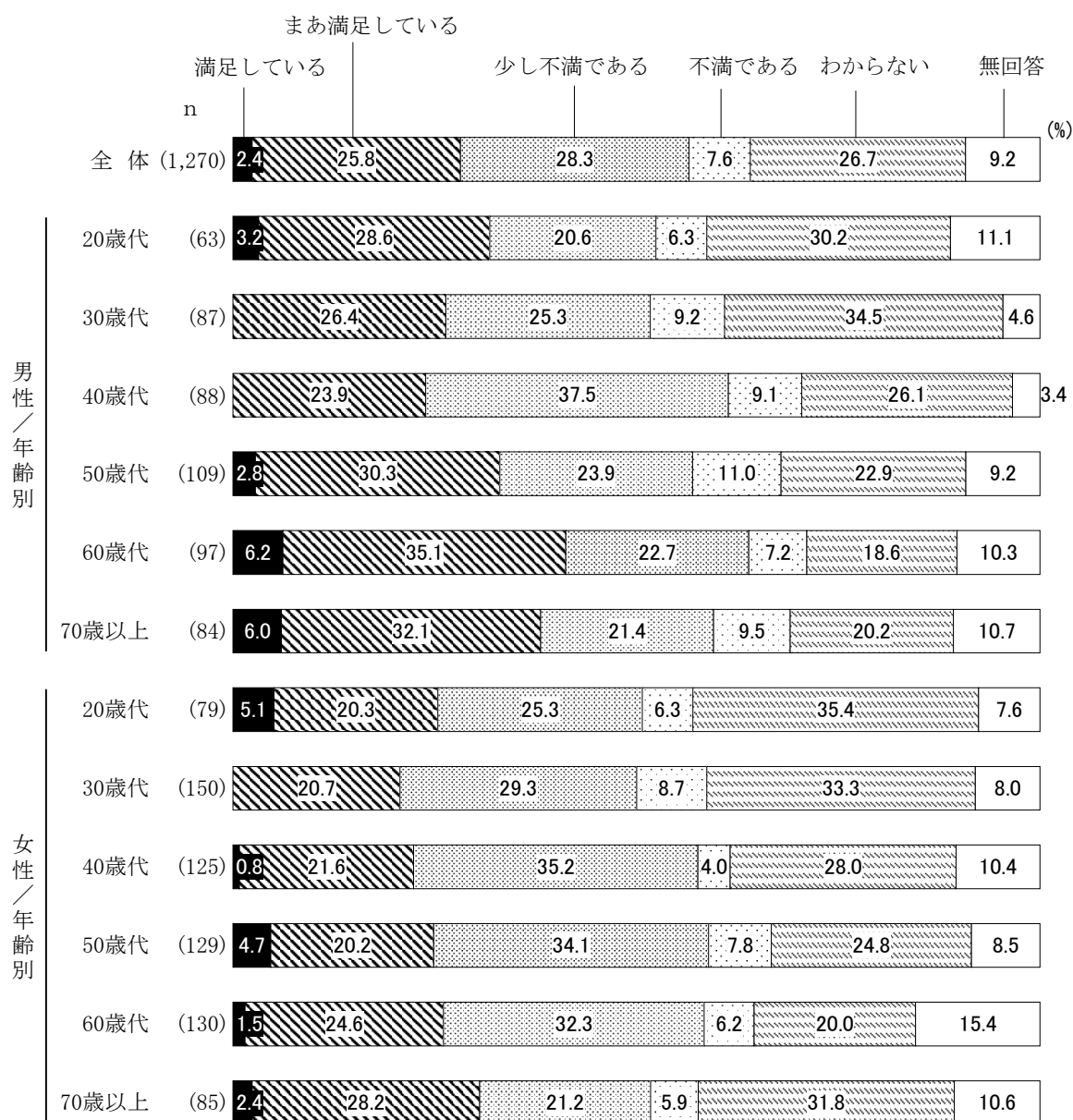
問9 川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。(○は1つ)

図表4－9 施策や事業の総合的な満足度



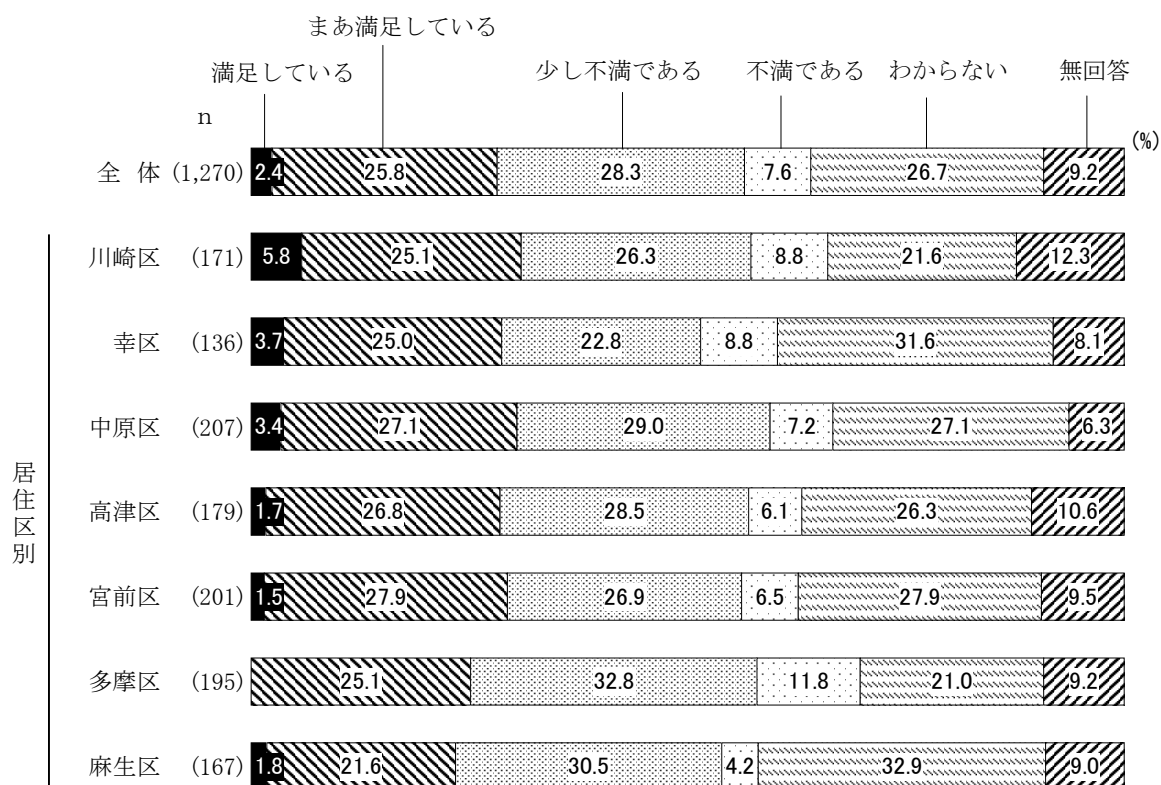
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」(2.4%)と「まあ満足している」(25.8%)をあわせた<満足>は28.2%、一方、「少し不満である」(28.3%)と「不満である」(7.6%)をあわせた<不満>は35.9%となっている。(図表4－9)

図表 4-10 施策や事業の総合的な満足度（性／年齢別）



性／年齢別では、＜満足＞は男性の60歳以上で多く、特に60歳代で4割を超えている。また、女性よりも男性の方が全体的に割合が多くなっている。(図表4-10)

図表 4-11 施策や事業の総合的な満足度（居住区別）



居住区別では、＜満足＞は川崎区と中原区で3割を超えている。また、多摩区と麻生区では他区に比べて割合が少なくなっている。（図表 4-11）

5 川崎市の広域拠点のイメージについて

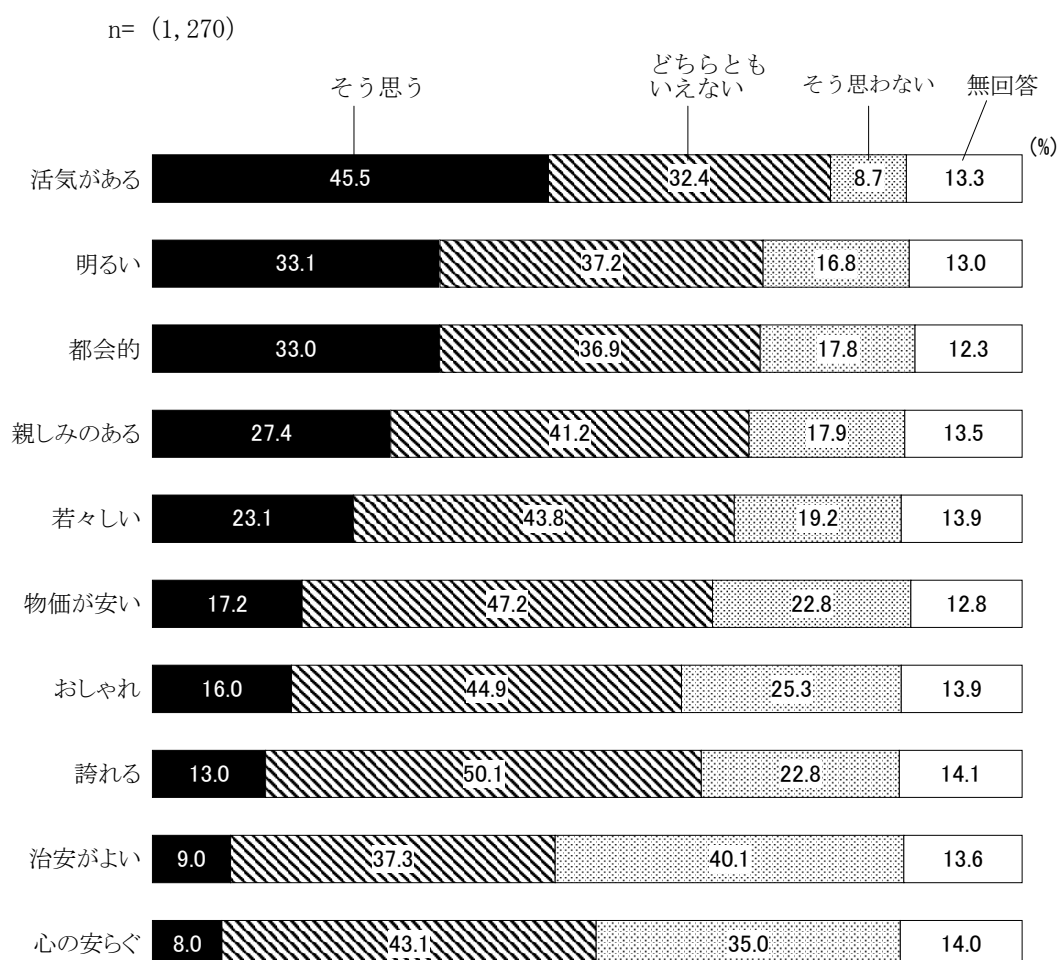
5-1 広域拠点のイメージ

◎ 川崎駅周辺地区は“活気がある”、小杉駅周辺地区は、“親しみのある”、新百合ヶ丘駅周辺地区は、“明るい”

問10 あなたは、次の広域拠点（川崎駅周辺地区、小杉駅周辺地区、新百合ヶ丘駅周辺地区）のイメージについてどう思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

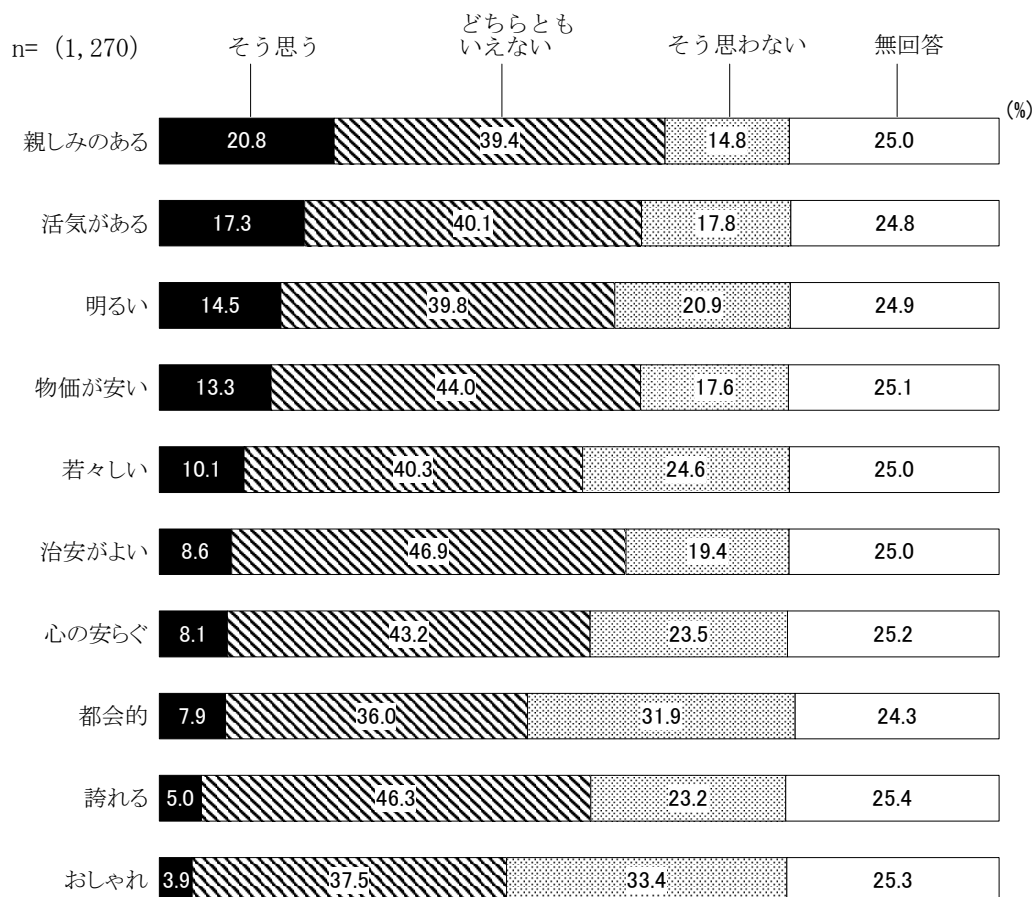
図表5-1 広域拠点のイメージ

【川崎駅周辺地区】

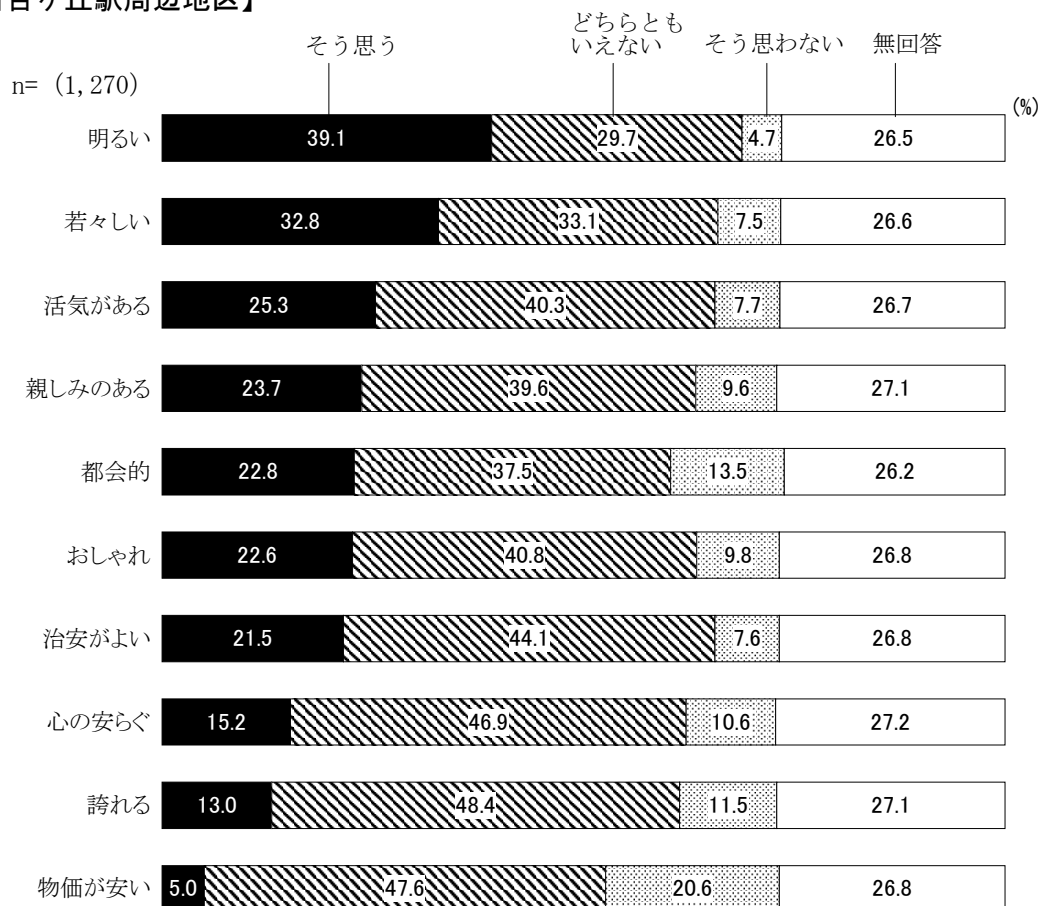


市内の各広域拠点のイメージとして、「そう思う」が最も多いものは、川崎駅周辺地区では“活気がある”が45.5%となっている。次いで、“明るい”（33.1%）、“都会的”（33.0%）で3割台と多い。小杉駅周辺地区では、“親しみのある”が20.8%と多く、“活気がある”（17.3%）、“明るい”（14.5%）、“物価が安い”（13.3%）と続いている。新百合ヶ丘駅周辺地区では、“明るい”が39.1%と最も多く、次いで“若々しい”が32.8%となっている。以下、“活気がある”（25.3%）、“親しみのある”（23.7%）と続いている。（図表5-1）

【小杉駅周辺地区】

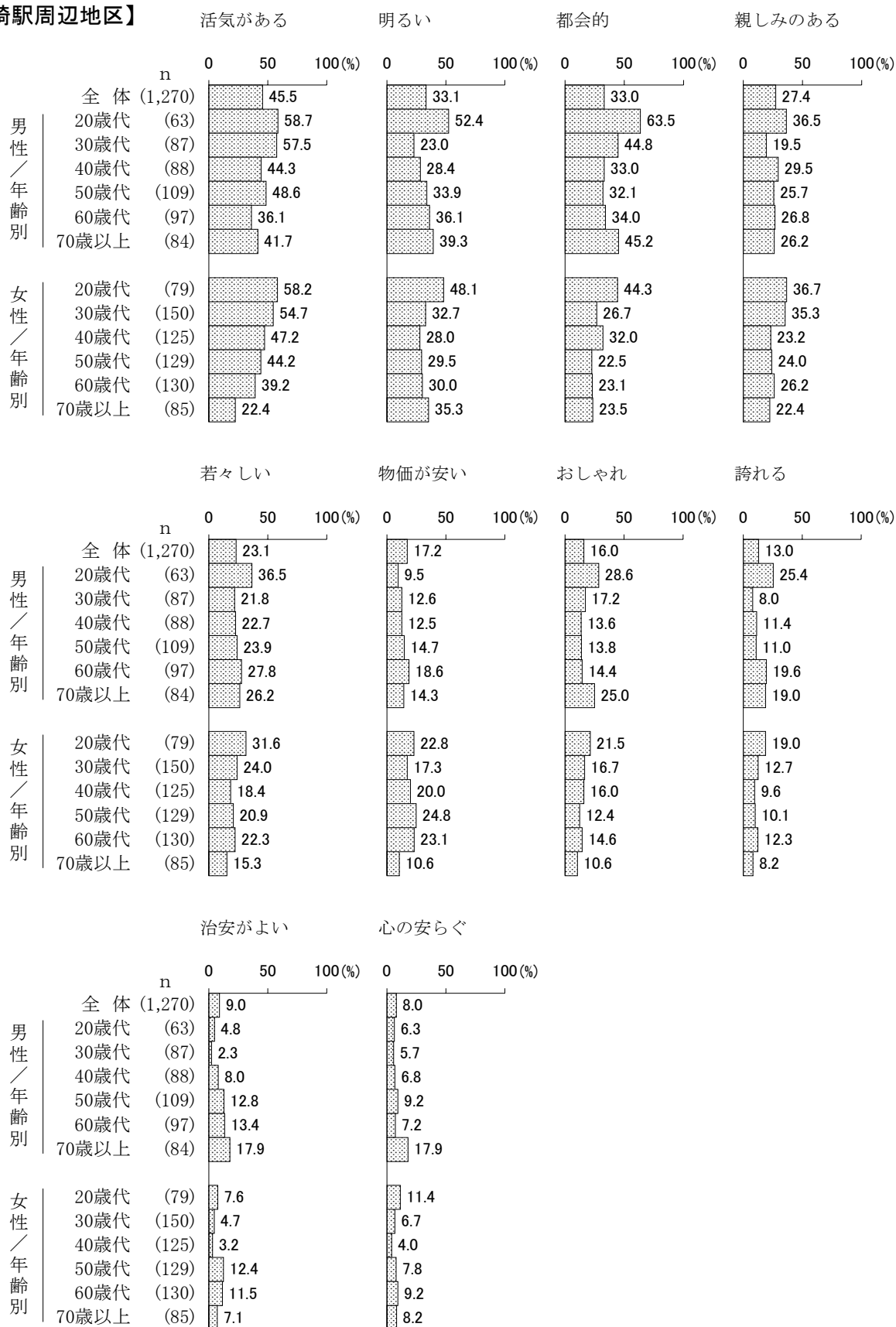


【新百合ヶ丘駅周辺地区】



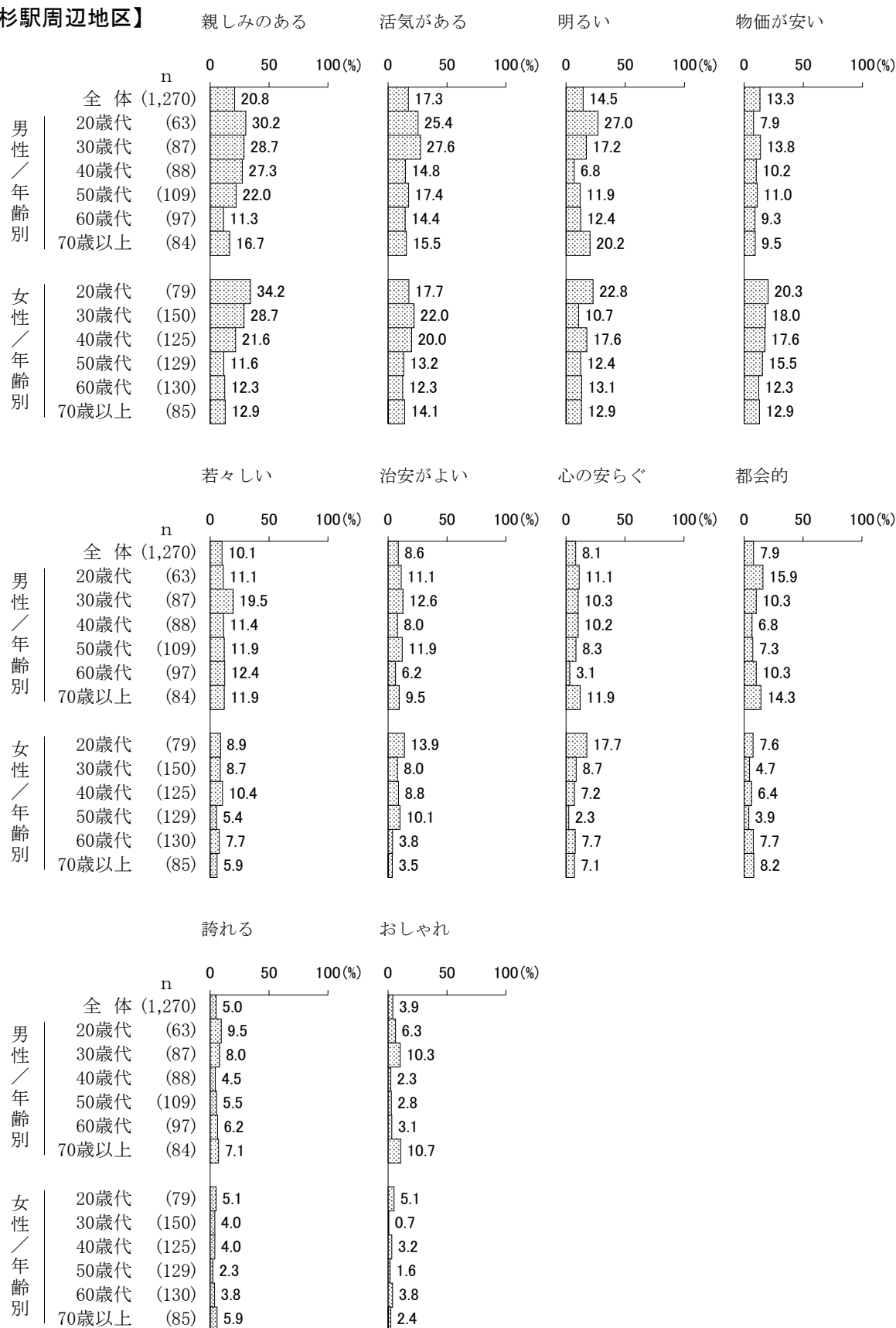
図表5-2 広域拠点のイメージ(「そう思う」、性/年齢別)

【川崎駅周辺地区】



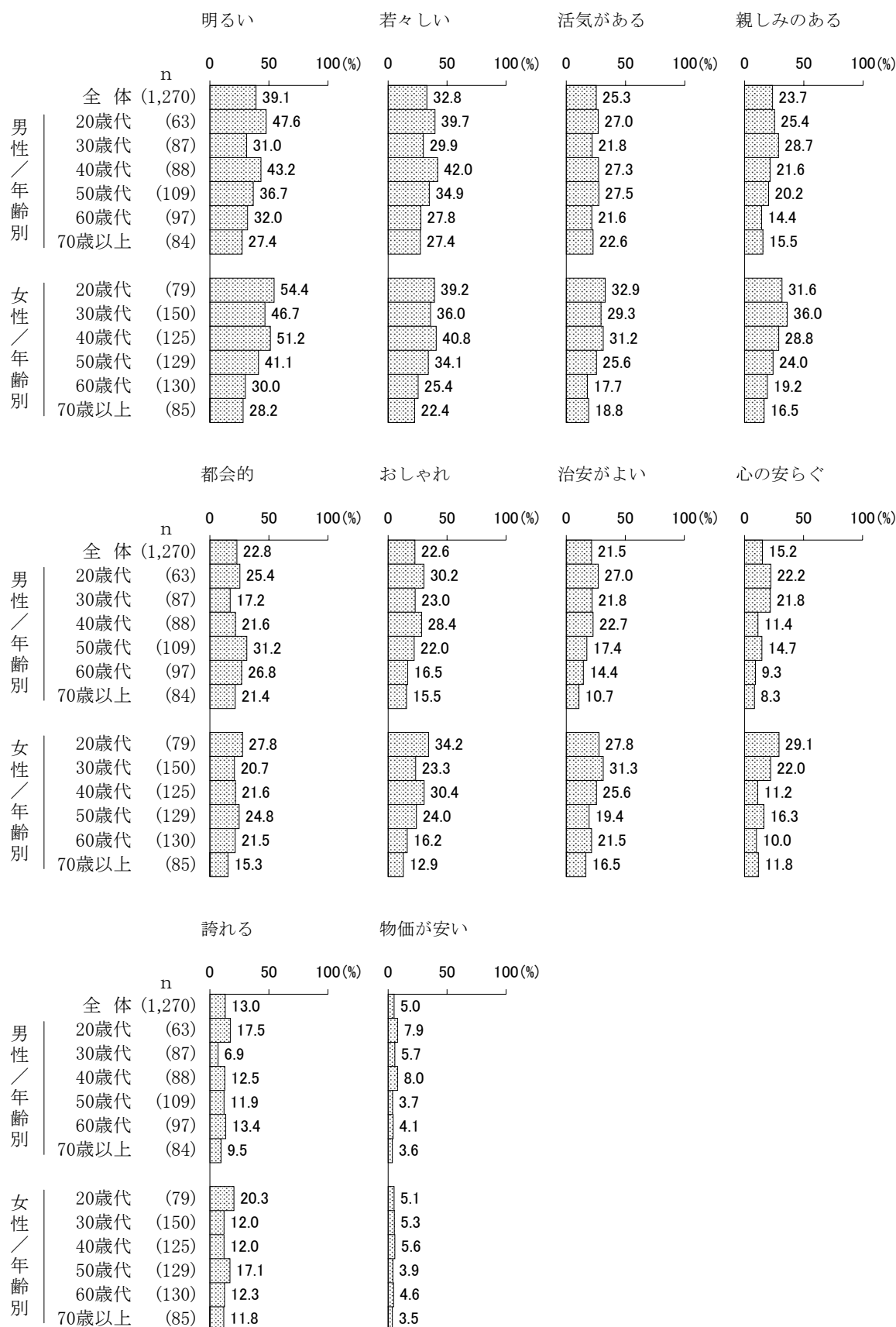
性/年齢別の「そう思う」の割合は、川崎駅周辺地区では“物価が安い”“治安がよい”“心の安らぐ”以外の項目が男女ともに20歳代で最も多くなっている。特に“都会的”では、男性の20歳代で6割台半ばとなっている。“物価が安い”は男性よりも女性のほうが全体的に多くなっている。(図表5-2)

【小杉駅周辺地区】



小杉駅周辺地区では、「そう思う」の割合は“親しみのある”は男女ともに20歳代で最も多く、年齢が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられる。“活気がある”は男女ともに30歳代で最も多い。“明るい”は男女ともに20歳代で最も多い。“物価が安い”は男性よりも女性のほうが全体的に多くなっている。

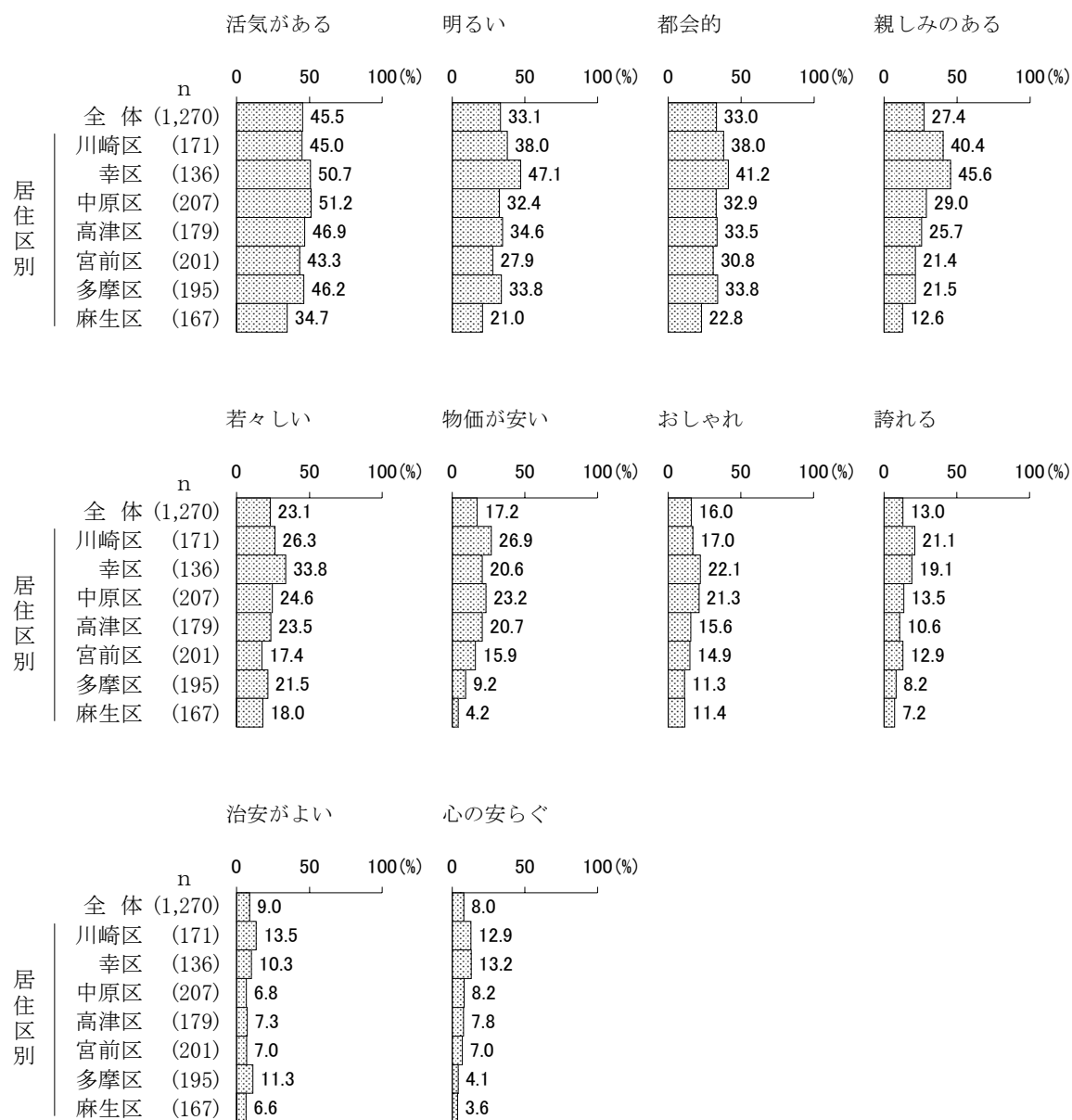
【新百合ヶ丘駅周辺地区】



新百合ヶ丘駅周辺地区では、「そう思う」の割合は全体的に20歳代から40歳代で多い。“明るい” “若々しい” “活気がある” “おしゃれ” は男女ともに20歳代と40歳代で比較的多く、“親しみのある” は男女ともに30歳代で最も多い。“都会的” は男性の50歳代で3割を超えている。

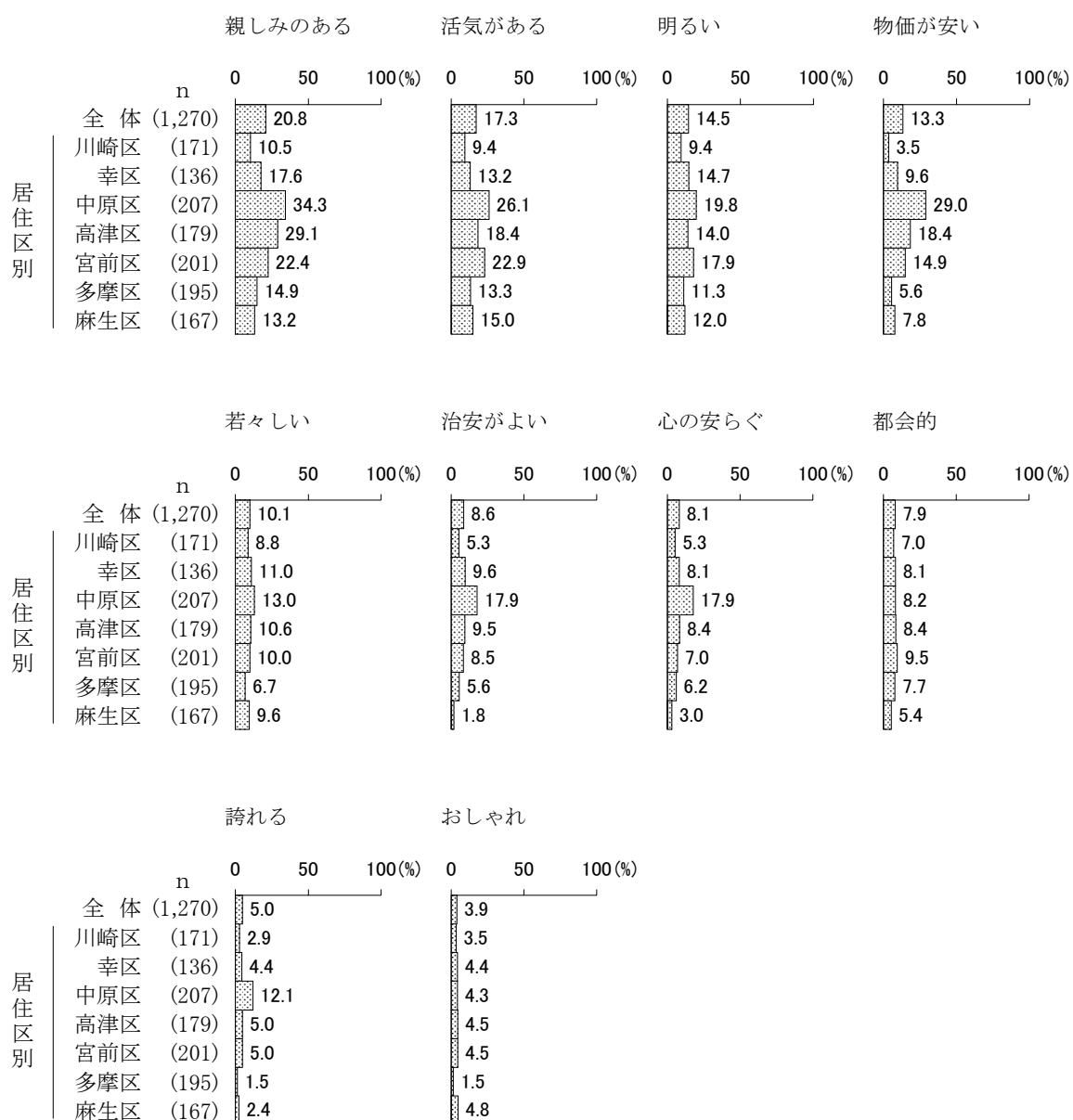
図表5-3 広域拠点のイメージ（「そう思う」、居住区別）

【川崎駅周辺地区】



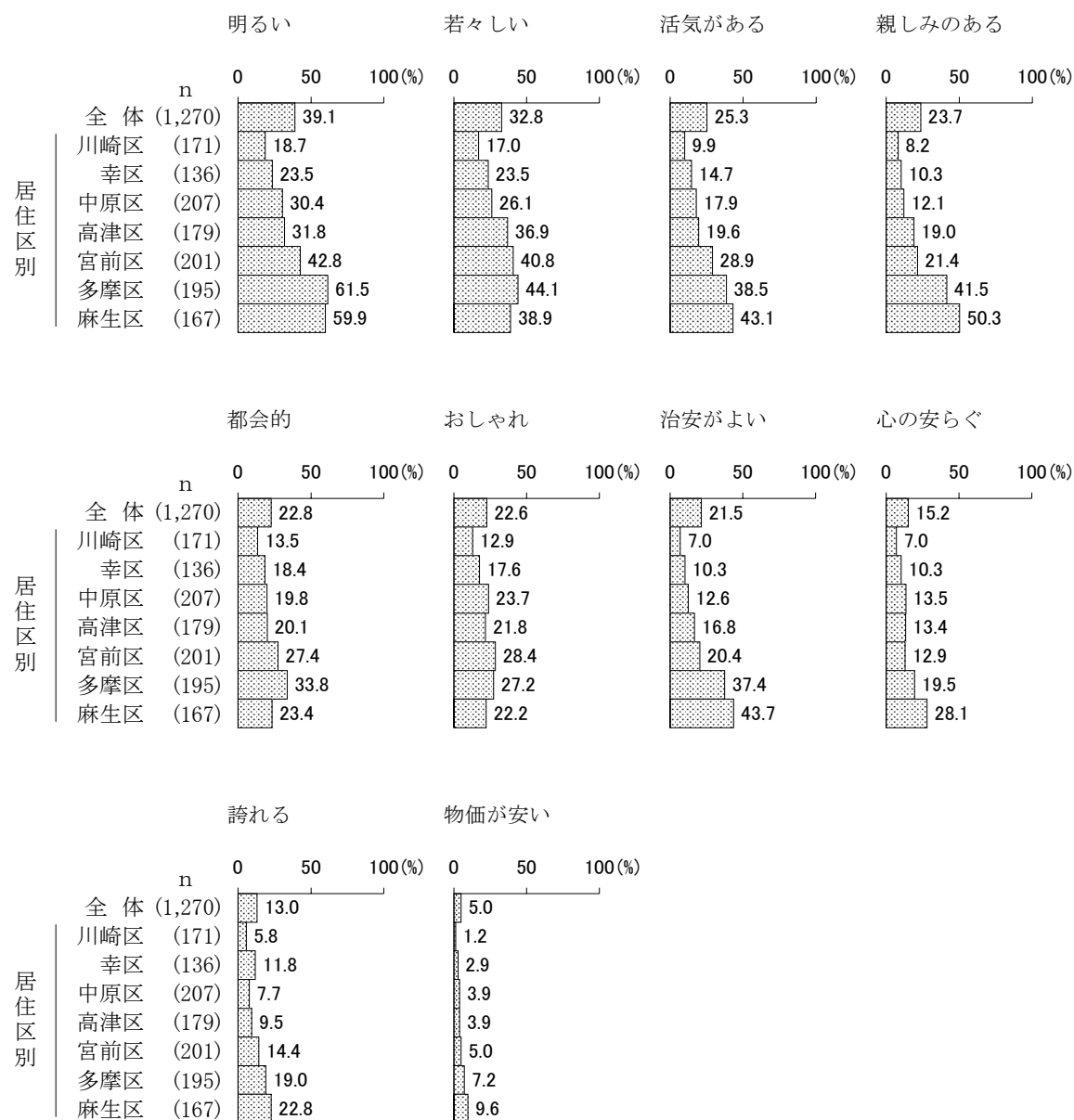
居住区別の「そう思う」の割合は、川崎駅周辺地区では全体的に川崎区、幸区で多くなっている。“明るい”は幸区で4割台半ば、“都会的”は4割を超えている。“物価が安い”は川崎区で2割台半ば、“誇れる”で2割となっている。(図表5-3)

【小杉駅周辺地区】



小杉駅周辺地区では、「そう思う」の割合は“都会的”“おしゃれ”以外の項目が中原区で最も多くなっている。特に“親しみのある”では3割台半ば、“物価が安い”で3割近くとなっている。

【新百合ヶ丘駅周辺地区】



新百合ヶ丘周辺地区では、「そう思う」の割合は全体的に宮前区、多摩区、麻生区で多くなっている。「明るい」は多摩区と麻生区で6割前後、「親しみのある」は麻生区で半数を超えている。